特ノ一 27

本草圖譜卷之六十一目錄

果部 五果類

李	二	一種	三
水李 集解	三	青皮李 同	三
麥李 藥頌	四	牛心李 時珍	四
徐李 附錄 不詳		杏	五
白杏 集解	六	沙杏 同	六
一種		巴旦杏	

本草圖譜

甘巴且杏	物印忙の圖	苦巴且杏	
同	度々檀斯の圖 九	同	舶来の物
梅	うゑのたなか	江梅 集解	やぢひ 十
一種	冬至梅 十一	一種	黄金梅
緑萼梅 同	あをしく 十二	一種	ときいぢひ
一種	たあらう 十三	一種	あうめ
消梅	つらぬきむい 十四	重葉梅 同	ぢうんむい 十五
一種	とひらめ 十六	一種	丁梅

一種	ちぢら 十七	一種	緋むい
一種	かとしまこう 十八	鴛鴦梅 同	とうむい
杏梅 同	いんだ 十九	一種	一重いんだ 廿
一種	むそくのいんだ 廿一	一種	未開紅
一種	酒中花 廿二	一種	八朔むい
鳥梅	いまぐうめ 廿三	白梅	うめがし
棚梅	不詳		

帝國圖書館藏

本草圖譜卷之六十一

果部　五果類

東都　岩崎常正　著

李

すもゝ 和名鈔　すもめ 美作　へんけいす 江戸

ヅリユニユス 羅甸　フリユイムボーム 和蘭　疐之 群芳譜

碧雪 名物法喜花の名　合枝 本草和名引兼名苑　麗枝

青椅　顔淵李 共子同上　李子樹 救荒本草

尾曜細晨 梵語

樹ハ梅と同しく葉ハ桃ニ似て潤く春月五瓣の小白花を開き実を結ぶ梅ニ似て皮光澤あり一方ハ溝あり熟ハ色ハ紫紅色味い酸し

一種

つまんおきまう　実林檎に似て美なる故名づく

水李 解集 しろすもし

白李 花鏡

早晩の一種あり共に形状相似て花紅色を帯び実は前條より大にして熟せれば紅色美し味ひ甘く酸を帯ふ時珍の説の胭脂也

形状前に同じて花白色實は熟して黄白色味ひ甘美なり

青皮李

物印帖に載る處の圖

麥李 蘇頌
奥及會津ニハ此物許りにして尋常の李あり樹梢低く葉少く花白色李の如く実四五月熟れ指頭の大ひにして紫黒色ニ味ひ甘かれども美なれ

牛心李 時珍

近年異國より來る處々に栽必誤てこれをもとめけるまくあんんどうとも云枝葉李に同く實大にして形桃に似て尖り俗に心臓の形をなす大さ一般の許り熟すれば黄色にして紅色を帯ふ味ひ他の李に勝れり甚甜くして美なり肉厚く核甚だ小なり集解に説處の諸李詳なれば

徐李 附錄 詳なれば

杏

かうなし 和名鈔　あんぎ 唐領李子の轉　アプリユス 荷蘭蟲語箋

紅玉 名物方言　黄吉 本草和名引蕓名苑　蓬萊杏 同上

阿舍徐矩 梵語　杏樹 放荒本草

樹は梅に似て枝肥て粗く紅色之葉はぶんこひめに似て二月花を開く五瓣水紅色丁梅の如く後實を結ぶ形赤梅に似て大之其大にして黄赤色にして味ひ甘きものをもちあんぎとゝふ是時珍説の金杏なりあんずし梅と混し安く分別なりかくあんぎも花に單瓣重瓣千葉等あり唯あんぎは枝粗にして長く葉円し実の味ひ甘くして果とおれ核と肉と離れ核に皺ありて桃に似たりむめに小さいは細枝多く刺の如し実熟くして味ひ酸し核と肉と離れ核に皺なり此を以て分別すべし

杏
あんず

白杏　集解

ふろあんす

形状同ケして
実大小熟して
黄色なり

沙杏　集解

ちるあんず

形状同ケして花千瓣菊花
の如く實を結ぶを稀也
蘭山の説に群芳譜の沙
杏ハ甘しして汁多く即世に
稱する処の水杏なりと
こゝろ杏核ハ梅核に似て
扁く紋粗し桃核に
比するに円くして扁く
仁ハ梅仁より大なり
藥用なくし四国より
出る處の杏仁ハ真之
江戸に来るゆきうめとふ

一種　むもあんず

マリユス羅の類

梅杏樹　放花本草

樹葉共に杏むもんに似て二月葉に先て花あり五瓣淡紅色後實を結ぶ形梅に似て大なり味ひ酢し時珍の説に黄而帯酢者為梅杏と以て此余集解中の諸杏詳らかなり

巴旦杏　匾桃 桃の集解　波淡樹 同上

物印忙の説に甘巴旦杏ハ身躰を養ふ嗽嗽を除き精力脱缺羸瘦を強壮おしき勞瘵及び肺労の症を復ひ苦巴旦杏ハ暖地に生ひ桃樹より高く葉狹く長く尖り味ひ苦し春花白色下利の功ふし胸中の痞痰を吐咯せしめ吐を止む此を食て酒を飲ハ醉ふをなし狐獏鳩雞に甚だ害あり動もせれハ死ひ桃の集解に匾桃出南番形匾内澀核状如盒其仁甘美蛮人珍之名淡波樹樹甚高大偏核桃出波斯形薄而尖頭偏状如牛月其仁酷似新羅桃不可食とぞ

甘巴旦杏

アノイクタリユスペルシカナ。ナフロレカル子ヲ。フレノアマイシ　物印忙に載る名

物印忙に載る圖

苦巴且杏　三種

物印花と載る圖

アメイカクリエスロ
ヒエミラペチト　物印花と載る名

同

度々捏斯に載る処の圖アメイガクリエスの圖ハ本邦俗に云処の桃類のあゆんとうの形状に似て實大きて長し

同

先年舶来する処の實並に葉の椎葉を圖ん

梅

うんのをか　和名鈔　うさこんさ　順徳帝御歌　うもゑつき
みわひつき　うさまちつき　まつかつき　共に同上
つけぶさ　漢塩草　百花魁　故事白眉　好文木　起居注
花魁　典籍便覧　世外佳人　鶴膝枝
清友　清客　共に同上　四塚　淥仙　名物法言
水枏　充膺百詠　枏果　典籍便覧実の名　乾藤　名物法言

右に云処ハ梅の總名之大和本草に梅花ハ獨天下の花に先て花を開く故百花魁と云花兄とは其香色形容亦百花にまされたりと云梅類古へ多く今に至り其數四百餘種に至る名花珍木等これあれとも此に載れ遂て梅譜に出れ今集解説ところの品を出れ

江梅　集解

やぢひ

江梅 解集　やむひ　直脚梅 梅譜　野梅 日上

大和本草に尤も香多く梅に好文木と云事晉の起居法に見へたり日本の俗に好文木と称せりハ白梅の香あるゝれたり一種あると云ふ人家庭際に多く栽て花を称し実を塩藏れ花五瓣白色實香に似てかく微し毛あり肉の味ひ酸く核にあして円し肉と核と離れれ仁ハ杏仁に似てかく一方尖りあり一種ちじうめと云あり形状やむいと同し枝を連て実をとり花を振ときハ枝に音あるを鈴の如し一種和實梅と云あり駿州大ひ江戸の官園にあり花葉やむいの如くかして唯實熟して核甚しく薄し和ゝ切り枝を連て食ふ一種とあるゝと云あり武州多摩郡青梅村にこの梅ゆゑ故村の名とれ葉花やむいと同しく唯実緑色にして冬月に至るまで落れ

一種　冬至梅 和名

冬至に花を開く蕚淡紅花白色單瓣なり

一種

黄金梅

和名

花單輪すこし
小く淡黄色
蕚淡紅色へ

綠萼梅

和名

大和本草ニ此早中華ニ多ク
ミジ枝條次ハ蕚ヲ生ス
色花單輪自己又子葉の
如ク又枝條下無ク
青ク ミジ小ニ白ク

一種　おうめ
　　おおのうめ
　　うらしうむい

大和本草に
甲斐信濃より
出つとなり
今處に亦あり
形狀野梅と
同ぶして

唯実四月熟して小あり
を大豆の如し又稍
大なりて指頭の如き
もあり

消梅　集解　つらぬきむい

此物紀の貫之愛賞あるゆへ名つく枝幹稍杏に似て紫褐色花白色単瓣
甚大なりして實円く大小熟すれハ微し紅色生ふて食すれハ甘美塩藏する
時ハ味ひ劣る集解に實円鬆脆多液無滓惟可生噉不入煎造といへり
消梅と名ゆ物ハ液多く滓なく口中にて消するが如き故名つく然るに大和本草に
小うんを充てる的凡ふくめハふみして食ふて食へハ味ひ苦し田て今改む

重葉梅 集解

さろんまい　かつもめ　かつぶさ

越後の國名産之花千葉淡紅色良香あり　一蒂に初めは八九實を結び熟するに隨つて二三實殘る

重葉梅
やつぶさ

紅梅 解集
花紅色の物の總名なり

一種
とびらめ

菅家愛せられし所
ゆゑ太宰府に二品なり
一ハ此物にして單瓣淡
紅色蕾及ひ瓣の先紅
色なり一ハ常の野梅なり

一種　丁梅

此種江戸丁村より出つ宮園に多し花草

淡紅色實杏に似て肉多し梅中の最も凡塩藏によろし

一種　おおうら

草瓣の紅梅刀中にて色稍薄し實小にて肉少なし

一種

緋むい

花單瓣深赤色にして正月開く又朱むいなり
深紅色なり此二品實を結ばれ凡紅むいの樹
ハ心まで皆紅色之又實中に花を開く物あり
寒こうばいこふ

一種

かごしまこう

さうまこう

嫩葉と枝條皆紅紫色にして
冬春の間花を開く重瓣濃赤色
甚美なり

鴛鴦梅 集解

とらむひ

新唐梅古唐梅の二種あり共に西土より来る今世に多し

重辨の紅梅に実を結びて多くは三実なれども又雙実物も有り故に品字梅 集都新志 三品梅 花園同書 といへり

杏梅 ひんこ

ひばむい

鴉梅 興花存志

同實

此物豊後肥後より出つ樹ハ杏ニ似て枝條肥て粗く花ハ重瓣淡紅色
實杏ニ似て皮厚く紅星品あり 集解ニ斑あるをいふこれ勾

一種

一重のかんぼ

花單瓣かして淡紅色あり

一種

むとんのかんぼ

花單瓣淡紅色かして小あり

一種

未開紅 和名

形状ぶんかに似て蒼の時は深紅開ときは淡紅色なり

一種

酒中花 和名

三國一 同上

此品白川侯梅の中にて殊に賞せらる枝幹粗にして杏に似たり花の形桃に似て淡紅色單瓣のいんかにて似て花瓣の辺り紅色にして花中の絶品なり

一種　八朔ぢひ

八月花を開く故に名づく枝條杏に似て花重瓣淡紅色也

鳥梅　ふすべうめ

青梅をとり籠に入て竈の上に提け置熏して黒色になれるものを云

白梅　うみんぢし

青梅をとり塩にて漬け紫蘇の葉をかへ又漬て日に晒し乾しつるものを云

棚梅

和産なし西土にて棚樹（[illegible]）を砧となして梅を接て一種の物をなす

まし然れともあまつれを梅とは性質まるかに異なれは疑らはしきを云

本草圖譜卷之六十二目錄

果部

桃 もゝ 一
五月早桃 日さもゝ 二
秋桃 あきもゝ
一種 ゐらきもゝ
餅子桃 まふもゝ
一種 源平
山桃 集解 やまもゝ
油桃 同 あぶらもゝ 三
一種 よろいとう 四
十月冬桃 同 ふゆもゝ 五
一種 いへさいもゝ 六
一種 ゑんしもゝ 七

一種　きくもゝ　八
白桃
一種　ぎんせつ
一種　さらさしぶれ
一種　單瓣　十一
一種　さかしぶれ
一種　單瓣
桃梟　もゝのきまゐり
一種　きくもゝ　八
一種　あらかりきもゝ　九
一種　さんせつしぶれ　十
緋桃　ひこんもとう
一種　八重
一種　あめんとう　十二
一種　千葉　十三
桃膠　もゝのきのやに
桃笴　もゝのきのやに
栗　くり
一種　わうしくり
一種　三度くり
天師栗　とち
一種　朝鮮ちつめ
苦棗　不詳
桃橛　もゝのきのくい
一種　もゝこつり
茅栗　さとくり
一種　そそのき
棗　ちつめ
仲思棗　物印忙の畜

本草圖譜卷之六十二

東都　岩崎常正　著

果部　五果類

桃

りゝ　和名鈔

ミちよろゝ　藻塩草

ミめもゝ　同上

ミまぶらんぞ　藏玉集

ヘルシヤホーム　荷蘭蜜語箋

天采　典藩便覽范名

靚晨粧　名物方言同上

膽之　同上　實名

緗梜　本草和名別集名苑

勾鼻

金城　共ニ同上

阿噌　梵語

樹ハ李ニ似テ軟ニ葉又李ニ似テ窄ク長シ実を下して三四年ニして花ある樹十年ニして老に種類甚タクシ要ク載ル能ハ集解ニ説処の物を出ル桃仁ハ單瓣淡紅を良とし

山桃 解集 さるもゝ

毛桃 解集

褫桃 同上

田村氏実小にして毛なり核大にして肉少く味ひ美なるはしかり花草解淡紅にして実小く堅く毛あり

五月早桃 解集 さるもゝ なつもゝ

たんげ さるもゝ

花草解淡紅実青熟して紅色肉まさ紅にして血の如く味ひ美なるは

油桃 集解

赤もいもう　かうもう　光桃 汝南圖史

奈桃 明

花單瓣淡紅蘂紅色実円かして香の如く毛茸なく花澤ありて紅色あり味ひ甘美なり又青赤もいとふあり形状同ふして紅色れ一種や忍まもいとふあり花千葉淡紅色あり一種花單瓣かして淡紅実一実あるものあり是汝南圖史の尊鬱桃之

秋桃 解集

あきもし

花單辨淡紅色ゆして実ふつゝふ似て肉厚く微し毛あり微し紅色肉白色味ひ佳之

一種　よろひとうし　今俗にまろひとうしと云もの有つもとん

銀桃 汝南圖史

水密桃 同上

花單辨淡紅ゆして大小実肥大之熟して黄白色甜水多し本朝食鑑に花淡紅実肥大なりをまろひとうしとゆとゆ

云り汝南圖史に形円色蒼白大可四寸許とふこれ之

一種
わしきもも
花單瓣淡紅にして實はきもも小似て味ひ佳なり枝直立して箒の如し
中山傳信錄の箒桃なり

十月冬桃 集解
ふゆもも 大和本草
かんもも
花三月開く單瓣淡紅にして實十月霜を經て稍熟に秋桃に似て味ひ稍佳之集解の崑崙桃西王母桃仙人桃霜桃恐くハ同物ならん

餅子桃 解

三月花を開き千葉淡紅實を結んで小にして胡桃ほどの如く秋熟して白色味ひ甘し

一種

いつさいもら

実を載て二年にして花実あり花重瓣淡紅色実小さし又花紅白雜るものあり

一種

源平

日月桃 花鏡

花重瓣にして一枝の内
小紅白を一蒂に分ち
開く又ならさと云ハ紅
白錯雜ものなり

一種

ちんぜんるま

花淡紅にして
瓣細く蒲公英
ちんの花に似て心
稍紅色之

一種 きくもゝ

菊桃 花鏡

花重辨紅色形
千瓣菊の如し

一種 きくもゝ

水紅色にして
菊花の如し

白桃　集解通名

碧桃　汝南圃史

花草解白色枝條
並ニ蕚ともに綠色
實ニかして味ひ苦く
食れへからず集解の
銀桃恐ムラ同物なん

一種

しろわらきもゝ

枝條細し叢生せらるゝ毎へわらきの名何れとも箒柳
の類にあらず花白色重瓣にして小さし

一種

さんせつ

千葉碧桃 灌園草木識

枝條綠色花重辨大輪ゆして美く

一種

ざんせつ あるかれ

枝條下垂して花へ ざんせつのそう

一種 爪桃 灌園草本識 晩紅 同上

重瓣の綠桃にして早晩の二種あり晩き物をゐたんひとうと云ふ

枝條下垂して花ハ源平と同し

深紅色にして隨て牡丹の趣きあり覺れべし

一種 八重緋桃

枝條緋桃と同く花重瓣深紅なり

緋桃 桑解通名

胭脂桃 汝南圃史

枝條並ひ子嫩葉紅色花單瓣深紅にして小し

一種

さかさしずれ

枝條下垂して花重瓣紅色なり

一種

あめんとう　孩児桃 汝南圃史　矮桃

道州桃 上日　壽星桃 花木

樹ハ肥ヒ矮脚高かゝらず葉長ゆして繁密人西洋のあまんとうの形の如く花單瓣淡紅の物多し又重瓣のもの又紅白雜り開く物等あり実尖りありて舶来の巴旦杏に似たり汝南圃史に矮桃高一二尺実如金桃と云まゝに百花詩に壽星桃短而千瓣と云とれへ

桃梟　もゝのきまのもり

桃膠　もゝのきのかに

桃笄

田村氏云戸守ゆゑ中華にてハ桃の木にて作る故桃笄とゝ
と日本にてハ桃を用ゆゑ者なし

桃橛　もゝの木のくひ

田村氏云桃のくひ本邦にてハやゝゝめに桃の木を用ゐ者なし

栗　くり　和名鈔　君州果　名物法言

大樹にして春月葉を生ず長くして周りに軟刺あり初夏花あり形
鼠尾に似て長さ七八寸花の莖の本に桃を結ぶ刺多し秋の末熟れ人
自ら烈けて子顕る皮厚く黄褐色内に黄白色の栗茨あり肉黄色あり
その味いたゞ勝れり又丹波の出る物名産にて大之これ集解の板栗之極
中に三顆あるものハ尋常之若二顆なれハ其一顆ハ実ゆゑこれを志やくしとゝ
則時珍云栗核なりこれを吹く時ハ音あり故に云ふ〳〵くりとゝ附方に独
顆栗子獨殻大栗と云凡栗を材と先れハ久にして腐朽せず

栗 くり

一種
六角
此物一毬の内に大積ある栗子ありて周りに小頭六箇ゆゑなり
一種
一樹委く毬を小唯一顆あるものあり毬三つに烈其実正円にして上樹尖り諸り時ひ踊り勝れり

芽栗 集解
さしくり 大和本草
山野に多くあり樹にして実も亦小く味ひ劣れり
一種 三度くり
越後の国にあり一年三度実を結ぶと云樹大なれば二三尺の木にも花実あり栗の葉より短く毬にして指
赤葉に文を生し燕尾の如くなるなり

越前越後松前其外諸國寒地に多く大樹あり葉は中央廣く本末尖る周り雲頭の如く春月葉の間に花あり赤楊（はんのき）に似たり後実を結ひ地を出し熟を比べ四裂して一穗二子あり形搽（すしすし）に似て三尖にして又蕎麦の形に似て大なり秋月採りて食に味ひ栗の如し或は実より油を搾る材も焚木とし炭に焚とき四方へ飛ぶ諸国にて此材椀杓子に作る又此木に生ずる菌をふなこけと云大に毒あり宗奭の説に湖北一種施栗類内未尖即様栗様子形也と云恐くは此ならんか

天師栗　とち　ヲシヨロ蝦夷　七葉樹　鎮江府志　華夷考

沙羅樹　海梧　草木状

深山に多し葉の形大に栗の葉の如くにして鋸歯あり一葉七葉集りつゝ大葉をなし夏月花を開き穂をなしを立六寸一花の大さ四五分立瓣淡紅紅色秋に至て実を結ぶ形山茶の実に似て大に又栗毬に似て剛なく厚くして黄褐色自らわれて中の子出つ実一顆あり円ふして栗の如く山民殻を去て曝し米粉に雑へて搗て餅とし食ひ木の理能良材に華夷考に樹毎枝生葉七片有花穂甚長而如栗花秋後結実可食正所謂七葉樹ありといへり南方草木状に廣外志を引て海梧木樹似梧桐色白葉似青桐有子如大栗肥甘可食出林邑といへり

栗

ゐつめ　貝原曰夏月に至て芽を生ず故に名く　ホルストフロイシ　荷蘭蟲語筆

ホロウリスリヱルシ　蟲名栗の名　九郷　名物方言　鷄心　同上　宝名

戚咨　本草和名引蕃名苑　青花　弱枝　王門

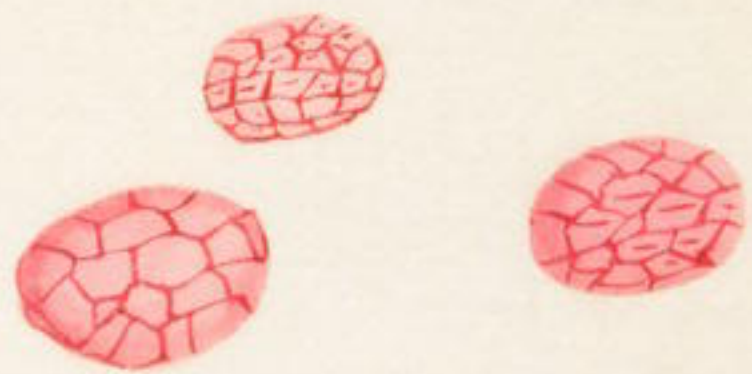
金帯　共に同上　悉止　梵語　棗樹　枚荒本草

人家に多く栽ゑ夏月葉を生ず形母指の大さにして三の縦道あり細堂に互生し五月葉の間に花ありにして黄緑色後実を結ぶにあるゝ豆の如し大なるものハ母指の頭の如く熟して紅色味ひ甘し生にて食すれハ歯を塡ハ樹ハ二丈余に至る一種くりゐつめハ蘭山の説に細腰なるものにして是轆轤棗なりといへり一種長さ一寸余にして両頭尖る者あり丹波の保律より生ず

一種

朝鮮 なつめ

葉大にして刺なく尖赤
大にして核にく肉多く
本にかして赤大なり此
綱目の大棗にして乗用
に上品なり



仲思棗

物印忙に載
る所の圖こ
の類なるべん

本草圖譜卷之六十三目錄

果部 山果類

梨 なし 一
鵝梨 同 あまなし
消梨 同 まつなし
青梨 同 あをなし
甘棠梨 同 りんさなし
赤棠 同 としこのとう 五
乳梨 こかなし 二
水梨 こうなし
赤梨 てうせん
鹿梨 いしなし
棠梨 かまかいとう
海紅 かまかいとう

一種　へふかいとう　六
木瓜　かうわけ　七
一種　白花わけ
檀子　ちどこ　十
榠樝　ムロうん　十一
一種　あんらんじゐ　十二
一種　物印忙の圖
一種　へふとんさし　十七
垂絲海棠　集解　あんきん　かいとう
一種　かいとうわけ　八
一種　ひわけ　九
一種　ミんかん　かいとう
一種
榲桲　まるめろ
山樝　さんさし　十六
羊朹子　集解　琉球さんさし

本草圖譜卷之六十三

東都　岩崎常正　著

果部　山果類

梨

なし　あうのき　豫外　あうのこ　阿灵

ベイリニス　羅甸　ペールボーム　荷蘭　紫實　本草和名　引草名苑

紫條　縹蔕　六俗　含須　共二　同上

青田菓　典籍便覽　百菓珍　玄圃實　共二　同上

快雪 名物法言　含消 日上　快果 遵生八牋

迦毗陀樹 梵語　吒那婆 日上

梨樹 救荒本草

樹一二丈に至り春葉に先て花を開く五瓣白色蘂に黒点あり一房八九蕚簇開はこれを千株雪 典籍便覧 玉容と云後實を結ぶ形林檎に似て大なり蒂の莖長し葉は円く大にして周りに鋸齒あり種類甚多し相及神奈川下總中山邊にては枝を平にして店に作り培養は

乳梨 集解　こかなし　ゆきしらし

野及古賀より出る名産也形円にして赤色を帯ふ水少く味ひ甘し

鵝梨 集解　あしゆき

夏月熟は青黄色にして形正円皮薄にして水多く味ひ甘し亦形状大に早く熟はるを六月と名つく

水梨 集解 ミつなし

形あかなしと同
くして水多し

消梨 集解 まつをなし 勢外越後

大場なし 香水梨 三才図會

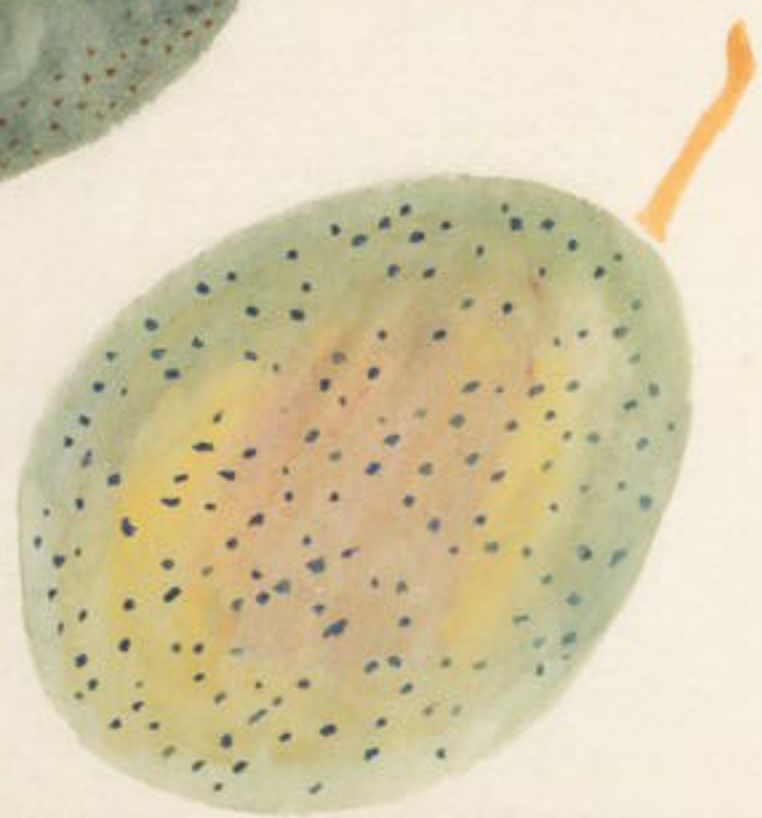
雲外の名産ハ形円して大小
水多く香気あり皮黄色
にして微し透徹ハ

赤梨 集解 てうせん

形本狹く末廣く長ミありて
皮黄色たゝるく置ハ冬を経
て敗れハ

青赤梨 集解 あをなし

形円く大にして
碗の如く皮厚
くして水多く
味ひ甘し



鹿梨 集解 いしなし

樹高大にして刺ありまた山中に自生あり貼となりて余のかしを接く此實円くして小く林檎の如く皮厚く肉硬く食ふに堪れ

甘棠梨 集解 りんごなし

形林檎に似たるゆへ名くいしなしの類あれ熟せる時ハ食ふべし

棠梨

やまかいとう　こりんご　かぶりんご

うつぎかいとう 江戸花戸　かぶりんご 日光　杜梨 典籍便覧

梓花 丹鉛總錄　山梨 同上田其花春間者之日乾淪之可充蔬

味棠龍芽 名祖全書　棠梨樹 救荒本草

野外日光中禪寺及ひ常及筑波山中に自生あり今江戸植家に多く葉ハ林檎に似て尖り初生葉円く後岐のある葉を生れ三尖或ハ五尖にあり三月五辨の花を開く白色にして紅色を帯ふ海紅に似て頗る小く後実を結ぶ海紅に似たり熟して紅色味ひ酢甘し

棠梨

赤棠 集解
としミかいとう
ミなり ろいとう
葉三尖ありてミつむかいとうの如く花淡
江ふして海紅ふ似たり 秋月実熟して
下垂し 紅色美之

海紅 みまかいどう

花仙 典籍便覧

睡妃 名物法言

貼幹海棠 集解

樹ハ林檎ニ似テ葉薄く嫩葉紅色を帯ふ春花あり五瓣淡紅色実円くして指頭の大き秋熟くれまれに食ふものあり

一種 へまかいどう せいふうはどう

葉尖り長くして花五瓣紅色実大なり

大和本草に中華より來る南京と浙江との二種ありとつゞり葉は狹く長く嫩葉紅紫色花林檎に似て紅色單葉重葉相雜り開く蒂細ふして長く紅紫色下垂に

木瓜

かぐわけ　具原云ぐわけハ木瓜の辯語之

鐵脚梨　花鏡

キヨニメス　蛮名

享保年中漢種木瓜を傳へ今多く栽る樹一丈許り葉に先て春月花あり五瓣紅色にして深紅を帶ふ形ぐわけに似多り秋月実を結ぶ瓜の如く鼻あり形椇檀に似て頗る小く味ひ醋し内の子黒色にして種ゆゑ藥用に上品なり

一種　かひどうぐわけ

枝幹刺あり花淡紅にして海紅に似たり実の形前条と同し

かひどう
ぶけ

木瓜
かぶぶけ

一種 白花ぢけ

形かいどうぢけに似て白色微し淡紅を帯ふ

一種 ひぢけ

花深赤色にして実円くかいどうぢけと同し以上二種皆鼻なく頭尾四ぢ之又薬用なべし

檀子　まゆだこ　ムさわけ　のわけ

山野に多し根の條蔓延し高さ一尺許り花ハ木瓜に似て五瓣丹色実又木瓜に似て味ひ醋し淡し食用まつし藥用に入れ雷敎の說の蔓子或ハ土伏子の屬なり

一種

もくりん ゐどう

形状志ともに同く葉葉
緑色にして花白色あり

槇樝

ムヒクリん　ステリーユチヤ 羅甸
クウーヱーヘレン 荷蘭　樝子樹 救荒本草
蓂査 本草和名 引葉名苑　蠻査 上円

人家多く栽ゆ樹高さ丈余葉ハ木瓜に似て大にして厚く深緑色光澤あり鋸歯なり春五瓣の紅花を開き実を結ぶ瓜の如くにして蒂なし大さ三四寸堅くして味ひ渋し微し醋し形長きもの多し

一種

実の形円きものあり これを藥舗にて竪に切て乾木瓜となれハ誤りなり二種ともに生にて研り汁を絞りて爽熬痰嗽の時砂糖を加へ嘗むこれを

ムヒクリんくらとゆ

槙櫨

一種 あんらんじゆ

あんらくじ

和及多武峯山中にありと云花実枝葉槙樝に同じ実円くして大なり熟せれハ黄色香気あり味ひ醋く渋し脳噎にあんらんじんを煎服せれハ大に驗あり

榲桲 まるめろ まるめ わうらい 仙臺

陸州武及肥後等にあり樹ハ槙樝に似て葉ハ林檎に同じ少く背に黄褐の毛あり花も林檎に似て淡紅色実も槙樝に似て同ふして黄色褐色あり史にはあり食ふ又りせいたに製ス

榲桲

まるめろ

本草圖譜 卷之六十三

一種 物印肥に載る圖

マリユスセイドアクウエーアツペレンの角ある物

山櫨

さんせし 即ち山櫨子之 さらなし 西湖 アサヲイ 朝鮮

メスヒリユス 羅甸 ミスベルボーム 荷蘭 棠毬子 本經逢原

猴梨 保赤全書 山栗紅果 古今医統 山棠毬 同方

山裏果兒 救荒本草 映山紅果 同上

樹叢生に葉は菊に似て五尖あり春月五瓣の白花を開く李花に似たり

夏月実を結ぶ熟して紅色罌に似て小く鼻あり味ひ甚だ淡薄あり

山樝

一種

へにさんごうし

形状前に同じ実を
載て三年ゆ花実を
生し枝幹軟弱実大
にして肉多く核少く
熟する時に紅色薬用
に上品あり

羊扒子 集解

琉 さんをし
ワラさんをし

琉球より種来る漢木にして高き一丈餘樹皮灰白色葉は五尖ありて
棠梨 しらぬかの如し夏月枝の梢に致花横開し山櫨花の如く五辨
白色後實を結ぶ熟して黄色なり荷蘭にてソンベルボームとゆふ

本草圖譜卷之六十四目録

果部　山果類

柰　ない　二　林檎　りんごう　三

柹　かき　四　紅柹　かしよかき

一種　しりくされ　一種　やまがしよ

一種　こしなぐん　一種　せふひまる

一種　さいしやうかき　一種　こんもん

一種　やまこんもん　六　朱柹　十文字

一種　ゑらがき　黄柳　同　きもしまる

著蓋柳　同　えんさかき　牛心柳　同　つらのさ

一種　もさ　一種

蒸餅柳　同　まる　一種　きたもし

一種　えらき　一種　うらまる

一種　甲昂まる　一種　ゑらき

一種　くろかき　塔柳　くりき

烘柳　ぶゆくし　白柳　ころかき

鳥柳　ふまべらき　酥柿　たるぬき

柿餅　かきこづき　椑柳　ふのかき　十三

一種　ふつまちや　一種　ちちや

君遷子　まるがき　十五　一種　まめかき

一種　ときもがき　十六　安石榴　さくろ

一種　かもいろまろ　火石榴　まるまろ　十八

一種　ちいもうまろ　海石榴　日　なんきん　さくろ　十九

本草圖譜卷之六十四

東都　岩崎常正著

果部　山果類

柰

ないい 和名鈔　アンキン 大和本草　ちぶこりんご 江戸

へにりんご 江戸加及　べしやご 加及　べらぶ 同上

へいこう 備前　ふなん 本朝含鑑　頻婆 引大和本草

類菓 三才圖會　荅遷 通雅　平波 典籍便覽

苹坡 汝南圖史　火頼賓　榛 本草和名引兼名苑

冷金丹 花鏡　比疑縛多 梵語

沙果子樹 枝荒本草

樹一二丈許り葉ハ林檎ニりんに似て頗る長く春月花ひらく五瓣淡紅色後實を結ぶ又林檎に似て長く大なり熟して紅色甚美なり海紅に接てよく括ひ苦水玉と津軽にも信濃にもあり其實日に晒して遠に送らしめて大和本草に出ひ林檎に似て甘く香く酒病を治れとなり

林檎

りうごう 和名鈔　アンんお　あをりんお 和漢

花紅 汝南圃史　文林 通名　蜜果 群芳語

冷金丹 同上　文官果 花曆百詠　淋瀹 名物法言

樹ハ海紅ニ似て樹皮の背白色大なるもの一丈餘葉も海紅ニ似て大く厚く紅色なし春月嫩苗の中ニ五瓣の淡紅色を發生し実を結ぶこと五六顆大さいしなしの如く用し熟すれハ日ニ向ふ處紅色味ハ甘し

柿

かき 和名鈔　ヒイソ 愛名　赤實果 典籍便覧

頳虬卵 名物方言　七奇果 同上　錦葉 和草和名引兼名苑

蜜丸　朱實 共ニ同上　柹樹 救荒本草

人家庭際ニ多く栽ル樹皮黒色老ゆる時ハ鱗甲を剝ク葉ハ牛膝ニ似て厚く春月葉の間ニ黄色四瓣の花を開く形墨の如し

紅柹 集解

ゆまとりき　ゆまとりき

和漢の御所の村より出る物名産之形円くて四方ニ少し凹ミ有り始め緑色なる時ハ味ハ甘きを比類なく上品之

一種 しりんされ

おしようきの如くにして蒂の処ろ自ら裂波あり其ゝ黒色なり凡味ひ甘美く

一種 ゆまぢしよ

形おしようきに似て円く扁く頭稍尖りありて熟れば紅色味ひ稍劣る

一種 ごしゆでん

形おしようきに似て頭少し凹と味い稍をと非り

一種 かふひまる

形おしやちんに似て大なるを拳の如く円くして扁く頭少く凹不之此物波味去り ちうかく酥材ゆきに製れるときは甚吉甘美之

一種 さいじかうがき

藝芸 廣島名産ん形ハ志まかきに似て円り扁く味ひ濃き故乾柿にして上品ん

一種 ゑもん

形ゆふひきりに似て四方稍凹ハ之あり頭稍尖り是又酥柿となれ

一種 やまゑもん

形ゑもんに似て稍小く頭凹ハ之是又酥柿と解

朱柿 集解 十文字

形状ゆふりきに似て頭に十字の如き凹わしあり四方も又稍凹ん熟せ形ハ朱紅色美し味ひ甘し

一種　こうぐき

形十文字に似て扁く四方に切こゝあり葉八瓣あり熟れれハ朱紅色時ひ甘し

黄柹　集解

しもまゝる

形甚大にして多日まゝるに似て頭梢尖りあり熟して黄色一度ハ渋ふ味あり一度ハ甘味にあり渋甘に変ぜること両三度に及ぶ

著蓋柹 解集

ゑんさうき　れんけうき

此及岩規より出つ
形状つるのこの如く
なして長く大に帯
の上に蓮華の如き肉
高くはり熟して黄色
味ひ淡甘し

牛心柹 解集

つるのこ

形状ゑんさかきに似て
蓮華の如き肉あり生緑
より淡味あり甘味下品
熟れども黄色あり

一種　ナシ

形状つるのあに似て四方刻缺あるを平ゝきの如し淡味強く酥枋となりて

一種

尾張名古屋に産れ一帯四辨に分れて形れんけるの花のをし奇品なり

蒸餅枋　集解

まのう

形状小く円くして頸尾平にして十月熟し紅色にして味いせんし者れり

一種

まつきゝもし　ぜんじ

形状円くして長く頸絹平にして黒点あり内中胡麻の如き斑あり味いせし又大なるを百目なると云ふ

一種

ゑんぎ　ゑんぎ

ゑじゑき

形甲州まるに似て
皮に或は青或は画に
似たる黒班を生ず
味ひ甘し上品之

一種

うつまる

形せんしに似て長く
頂き平にして頭に黒
き班あるをうつまきの
如し故に名づく味ひ
甘美なるを諸柿に
まされり

一種 甲州まのる

まんけんまのる

形状せんしに似て下廣く熟ふして黄色を帯ふ味い稍淡く後甘し

一種 こうげき

形まるに似て頭稍尖り初まり淡味なく冬に至りて落れして木に着霜を経て熟さる時ハ及黒色味ひ甚こ甘く汁多し

一種 くろがき

形正円にして初かきに似て稍ふく秋後木に着て熟す凡ハ全躰黒色流の如し味い甘し

烘柳 ぶゆろし

稲草不器中に布き
ふふかきを入れ置き
時ハ自らゝ熟して渋
味去る味ひ甘し

塔柳 ぐーかき

ふふかきの形長
きも又円きも皮
を去串に貫き
乾したる物也

白柳 ころかき

ふふかきの皮を
去り乾柳とな
しこれを器中
に蔵むれハ自
ら白粉を生
ず

鳥柳 ふすべかき

ふふかきの皮を去り縄にて
つなぎ大上に掛乾柳となる

醂柹　たゝ渋き

西土にてハ諸の水につけて渋味を去を云本邦にてハ蛮酒器へ志ぶ乾を入れ酒を吹置く時ハ渋味去て味ひ甘し

柹鎰　かきこづき

西土にてハ糯米を用ゐ本邦にてハ粳米或ハ大麥を炭り粗き志となし渋りきの堅き又烘柹を入れ橋杵ま也鎰とかれとき渋味去りて甘し

捍柹　ミのがき

柿中にてハ下品にして山野に栽て大樹となる実ハ多く一寸許り長ゆこ尖りあり霜を経て渋味去りかゝし緑色あるをとりて水へ入れ渋漆に作る又搭柿ともなれ

一種　こぶもちや

形状長ふしてミのがきに似たる醂柿に作り又乾柿となれ

一種　すちや

葉長大実もまた大に形ミの柿に似て長さ三寸許り圍り十三寸許これも皮とす乾して粉を生せしめ白柿と分れ尤上品之又秋月半熟の物を採り蓄中に飲ん一旬を過れハ自ら熟して柔りく味ひ甘しこれを東土にてすちやといふ

君遷子

すちがき　よしかき　大和本草　櫺棗　便藉便覧

梠遷子　正字通　軟棗　枝荒本草

形状柿と同く実に小にして指頭の如く円にして長くあり挾まゝにはなり大和本草に此柿丹波にあり味甘きを常の柿の如しといへり此物大にして熟したるを食ふ又青色ならをとりて水に浸し柿渋に作る一種ならやまかきと云物肩及山中にあり葉まめかきに似て狹く長く実もまめかきに似て扁し

荔枝子

一種

まるめがき 江戸仙臺

くろうき 上州

葉柿に似て狹く長く実指頭の大きさにて正円く枝に簇生して葡萄の如く熟して黄色なり集解の丁香柿なり

一種

ときも

紀加深山に自生あり四時もとに葉あり葉の形まめりきに似て稍小にして厚く二年を経てつゝぎ落れ葉の間に実を結ぶ形まめりきに似て熟て黒色之

安石榴

さくろ　しやくろ　石榴の韓語　サラナートボーム　和蘭

金麗　群芳　紫房艮研　名物法言　石醋　花曆石詠

剪紅綃　名物法言　花の名　延年花　本草　和名引歌　高錫食經花名

娜捻磨　梵語

人家多く栽り樹高さ一丈餘葉は千屈葉に似て春の末枝の梢鐵葉の丸よ紅花を開く本に蒂あり紫薇さくろに似たり後果を結ぶ秋に至りて熟れ形黒栗殻に似て大く熟れれば紅黄色自ら裂る中に数十子殻中に満つ味ひ甘酸に二種ありあまさんるは西陽雜俎の天醬之一種えんさくろ室の形同く題中の実白きを水晶の如し　島解の水晶石榴なり

一種

かむりろ
まろろ

瑪瑙榴 汝南圃史

千葉銀紅石榴 灌園草木藏

千葉にして瓣の本紅色末黄白色
実を結まれ集解に黄赤二色にて
とふこれなり

火石榴 集解

もゝのまろろ
百葉 興花府志

千葉紅榴 汝南府志

千葉にして紅色
実を結まれ

一種

きいせらさろろ

花千瓣白色
かして形状花
さろろの如し
実を結ばれ

海石榴 集解

ぢんまんさつろ

樹小にして高さ二三
尺葉もふく花も又
ふく單瓣紅色かして
實を結ぶかにして味
は甚酸し

本草圖譜卷之六十五目録

果部 山菓類

橘 かくさ 一
黄橘 集解 しらわうし 二
朱橘 同上 あかうし 三
一種 とうみうん
緑橘 同 おとみかん 四
包橘 同 かうし
一種 福州たちえな 五
早黄橘 同 わせかうし
穿心橘 同 六
凍橘 同 おくてのかうし
荔枝橘 同 うさみかん 七
一種 なりみうん

柑 みかん

乳柑 集解

海紅柑 同上 ちやうくちこうん 九

洞庭柑 同 ほうふしん たちまる

一種 紀伊國みかん 十

朱柑 同 へかみかん

獅頭柑 同 雲州くちうえな 十一

饅頭柑 同

一種 菊みかん 十二

橙 くねへか

一種 わんくわく 十三

一種 たいく

一種 かへを 十四

柚 ゆ 十五

一種 とまゆ

一種 きんゆ 十六

一種 ゆう

朱欒 釈名 さがん 十七

一種 なんわうゆうを 十八

香欒 集解 とうくねへか 十九

枸櫞 まるふし かん 廿

佛手柑 釈名 てふしかん 廿一

金橘 ひめくちうえな 廿二

金豆 集解 まめきんかん 廿三

一種 なかこきんかん

本草圖譜卷之六十五

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝

果部　山果類

橘（きつ）

かくゑ　日本紀
たちぞな　和名鈔
かうじ　今の名
トグテグ　朝鮮
シ子ーセアツフル　荷蘭
金衣（きんい）　本草和名引兼名苑

黄 同上　玉局 花暦百詠　青露 名物方言

今云ひちまるは別物なりて古云たちまるはしらしは今西國にてしらまるとも云

物は柑より微し小之此は八閩通志の猴橘之橘はかくしの類の惣名之薬用に入る橘皮陳皮はかくしの皮を用ゆべし　橘柑の分別集解に詳なり時珍の説に橘は実小其瓣味微酸其皮薄而紅味辛而苦柑大于橘其瓣味甘其皮稍厚而黄味辛而甘と云に従て橘はかくしなるべし　橘柑の類四國九州等の暖地に多く栽也橘の樹高さ一丈余に至る葉は冬青に似て実しげり花五瓣白色空院に似て枝幹に刺ゆり実柑より小く皮薄し今薬用に柑皮を用るは非なり

黄橘 集解　しらわかくし 遠州

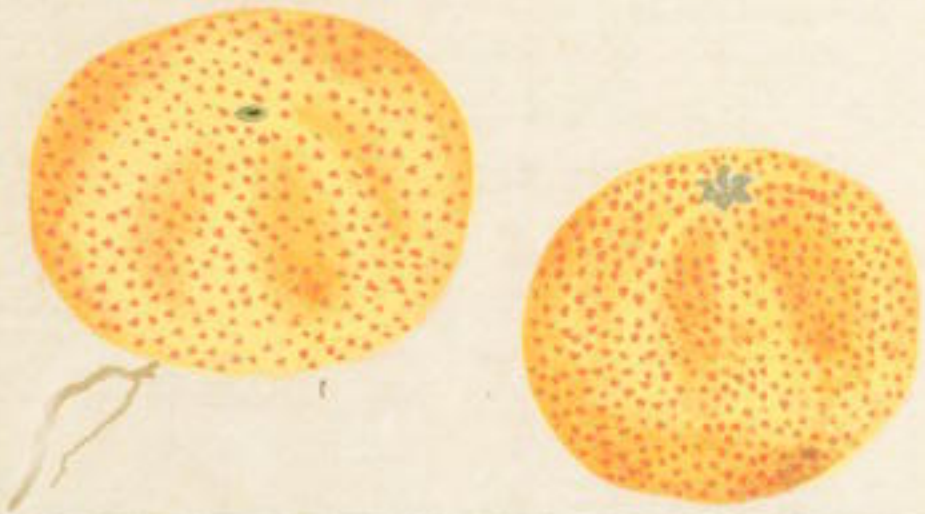
遠州白輪より出つ形柑より微大にして肉皮に満つ肉の味ひ甘く皮甚だ薄く皮肉の間に白脉なしこの皮を以て上品とす近ころ上総ゆ東金より出るその形味ひ同し

志〻わかうじ

朱橘 集解 あかゝうじ

へまかうし 染血 江南園史

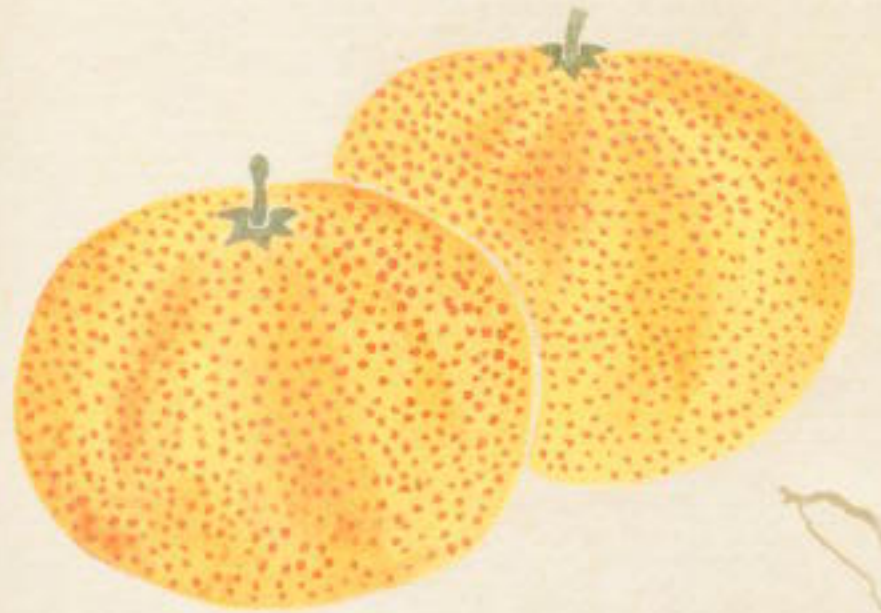
実の大き柑の
如くにして皮の
色赤く美なり



一種

とうみかん

筑前筑後に産す
元漢種なるべし柑の
大かしき皮の肌へ細密
ふしき橙のやし皮
赤く肉の味ひ甘く
核少なし



緑橘 集解

あをこかん

朝鮮より来る
柑の類に非ず
青色のときより
食べし

包橘 集解

かうしゝ

尋常のかうしなり
柑より小さくして皮
薄し皮の肌平に
して黄色光なり
て下品なり味ひ苦し

一種

福州たちなる

實はかうしに
似て皮薄く肌
細く味ひ酸し

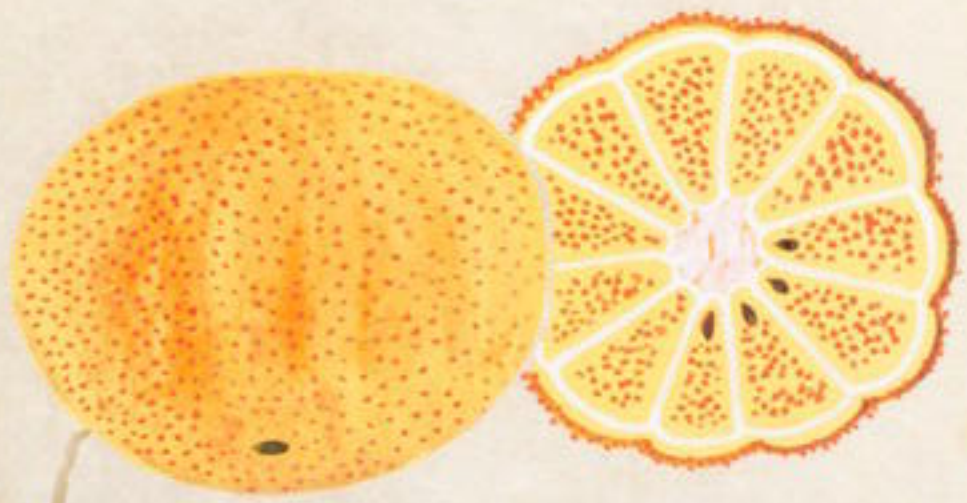
早黄橘 集解

わせかうし 早紅橘 汝南圃史

近年下総の東金にて橘柑の類を多く栽也秋より早苗のかうしを出し物これを尋常のかうしに似て緑色稍大に味ひ苦く酸し

穿心橘 集解

皮を去い中心に一指を入るほどの穴ありそのへ相にてこれなり



凍橘 集解

おくてのかうし

冬月に至て
尚実木に附て
落さるものゝ

荔枝橘 集解

うきみかん

大さかうしの如く
囘く皮厚く硬し
黄白色の疣瘡の
形にして荔枝の皮に
似たり

一種 なつこかん

盧橘 潛確居類書

葉は柚の如く
肉皮こかんに
似て早く出る

柑 こかん

瑞金奴 群芳譜

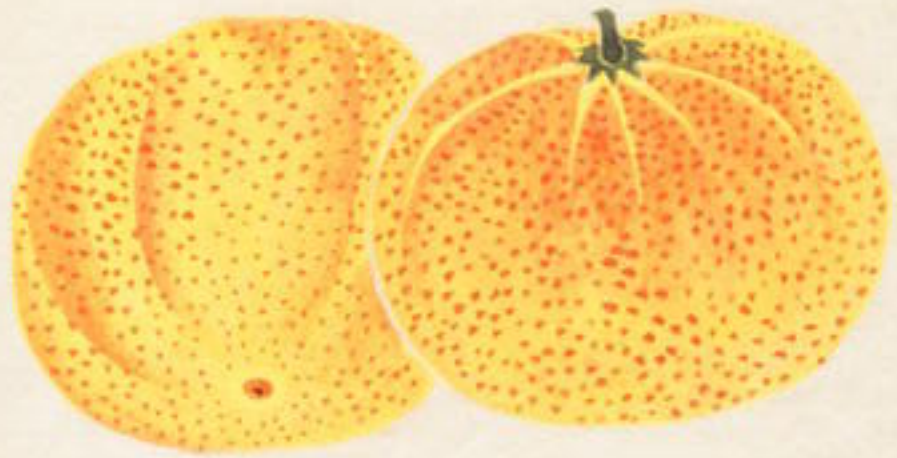
甘子 酉陽雜俎

穰侯 事物異名

柑は橘と同じく暖國の産にして寒國に養ひうつし花葉共に橘に似
たり実の皮厚くして氣孔粗く肉の味ひ甘し其種類多し古よりの処
柑の總名なり

乳柑

田村氏の説に昔年朝鮮人柑子を持来る者あり呼てかんをとらん形らくわんおに似て小く其の色もくわんおより鮮ことかんに似て少し大きなりて氣甚しく味ひ至て甘し其皮の厚さくわんおより少し薄し殺らしい乳柑なりとらつ



海紅柑 鮮

しやかしらこかん

実大さくわんおの如く皮厚く赤色膚細少して肉の味ひ甘し

洞庭柑 集解

アウふぎん
しうちぎん

昔年筑後柳川侯
朝鮮より此種を持帰り
栽られしより今世に
多く実の
形志やかくしてかんな
似て稍扁く
膚細やして
皮薄く肉の
味ひ甘く核
少し

一種 紀伊國ミかん

形大かして皮
厚く肌一粒
して柔く肉の
味ひ甘美し

朱柑 集解

へまこかん

皮黄赤色にして酸味多く下品なり

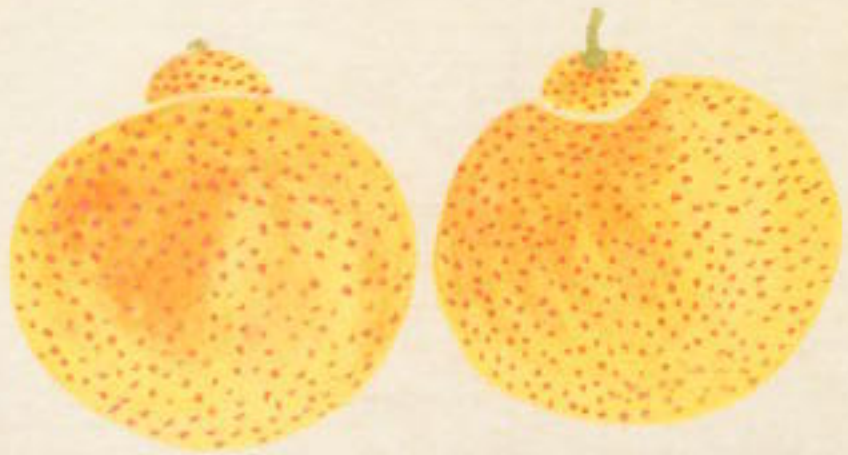
獅頭柑 集解

雲州たちばな

駿州に多く栽ゆ形大にして柚の如く稍扁く熟して紅黄色緑色の疣瘡あること蝦蟇の背の如し味甘し以上三種は葉の形大にして橙葉の如く本に小葉なし枝幹刺なり花五瓣白色柑の花より大なり

饅頭柑 集解

形紀伊国ミかんより小く皮厚く硬く蒂の着く処別に高く起りて木瓜の花の如し



一種 菊ミかん

葉いくねんかの葉に似て小く実は柑より小く黄色の処へ竪に緑色の紋あること菊花の如し

橙

くねんか

根 群芳譜

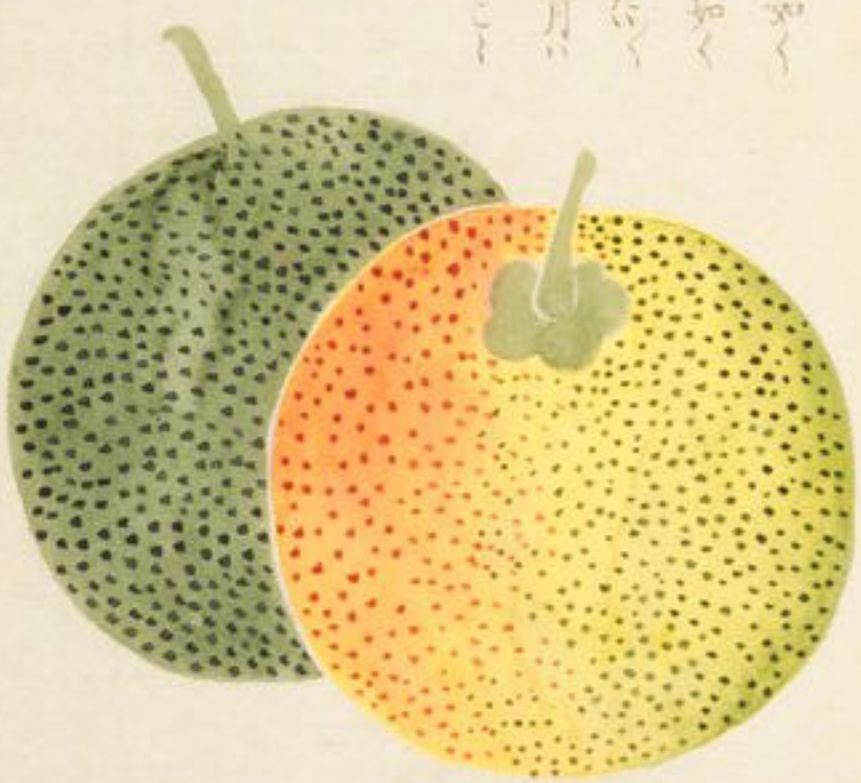
蜜橙 秘傳花鏡

樹高大かして葉は柚の如く大に本に小葉をかし枝間に刺ありて花まゝ柚に似て大く実雲州たちまちに似て風密かして厚し肉液少く味ひ甘く香氣あり

一種

わんたいく 長州

長州にあり形常のくねんの如くにて其帯二重にあり饅頭柑の如く苦きゆく食はるゝよし又たいくと同しく冬月は黄色春月は緑色に変し年を経ること同し



一種
かぶすと

一種 たいく かぶすと 長州
回青橙 八閩通志
樹葉くね人臣に似て分別し入り段但其実青く冬月霜を経て漸く紅黄色味ひ酸く苦し此皮近頃疝積を治する事用ゆ冬月紅色なる実春に至り緑色に変し冬又紅色に至る年を経るまでたいくと云

樹葉いくわんかに似て刺多く實稍小にして柚の如く黄色味ひ苦く臭氣
につて食ひたべし但乾して蚊をふせ故この名あり長州にハ苦味少く酸味
多く食ひたべき物なりとかへり

柚

ゆ 和名鈔

まるで 筑前雲州

かうしゝう 中國

大橘 文倉州志

樹高大にして枝間に刺多く葉両段なるし夏月五瓣の白花を開く実ハ
柑より大に橙より小にして黄色肌粗く味ひ酸し

一種

とまいも

上やくも　さんなも

邏柚　廣東新語

實の形小にして
硬く春る至りて
実猶樹にあり味
の劣れり

一種

きんも

實の形相似て
皮細小にして平
なること柑の如
く純黄色酸味
少し

一種

まかう

形狀柚に似て
酸味少なく甘
味ありて果と
なるべし

朱欒 秋名

さぶん　さんが 筑前　ぶやが 土佐

しやうしゆうん 京

此物柚と異なり葉長さ七八寸花五瓣白色柚の如く実甚大にして匏ゆうの如く
外皮も又柚の如く黄色皮厚さ一寸許り肉淡黄色にして苦く生にて食べかし
の砂糖に和して食用ひ

さわん

香櫞 集解
とうくねんか 日向
さんかう 伊豫
うちむらさき 苑前
四國九州の暖地にあり形狀前に
似て唯皮の内の瓤淡紅色香氣あ
り味ひ稍甘し食べへし

枸櫞

まるぶしかん

暖地にのしてよい実を結ぶ
葉は柚に似て厚く大く葉の本に
小葉なし花五瓣柚の花に似て
大かして淡紅色を帯へ其實圓
くして両頭尖り長さ二三寸次淡
黄かして厚く稍疙瘩ありて肉白
色味ひ不可なるべし砂糖或い蜜
煎し食用し又藥用とす

佛手柑 名稱 てぶしかん

飛穰 通稱

佛爪香圓 八剛通志

樹葉前條と同じく唯此物嫩葉紫色を帶るを以て別とす唯其實蒂は拘椽の如く中央より末分れて千辨許屈曲して人の手に似たり陶白色ふして核なし

金橘

むめたちはな

きんかん

瑞金奴 秘傳花鏡

樹葉柑に似て葉稍小く刺あり
花五瓣白色小く実の大き枇杷
の如く熟して黄色且にて食し
砂糖に漬て食用ひ

金豆 解集

まめきんかん

樹葉前條と同しく唯
実大豆の大き秋月熟
し黄色春に至りて
紅黄色尚樹に着てゐり
肉少く食ふに堪ひ

本草圖譜卷之六十六目録

果部 山果類

枇杷	一	一種	
楊梅	三	一種	四
櫻桃	五	山嬰桃	七
一種	八	銀杏	九
胡桃	十一	山胡桃	
一種	十二	一種	

一種 てらしいらこ
一種 つのたしいこ 十四
苦櫧 つゐかし 十六
鉤栗 ちふかし 十七
椽實 つるまこ
枹 集解 ふちふ 廿一
一種 廿二
一種 廿三
榛 たしいこ 十三
櫧子 かしのこ 十五
一種 ちふあの
一種 いちゆかし 十八
槲實 ちらのこ 廿
一種
一種
一種 たしそ
一種 廿四
大葉櫟 釈名 かしこ

本草圖譜卷之六十六

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

果部　山果類

枇杷

ビハ　和名鈔　蠟兒　典籍便覽　眞雪　名物方言　花の名

人家多く栽ゆ葉ハ栗ニ似て厚く背ニ黄毛多し冬凋まゝ冬月穗をなして五瓣黄白色の花を開き夏月実熟ハ黄色にして正円拇指の大き味ひすし中ニ核あり黒褐色にして金光あり一枝のもの二三核のものあり凡て核ハ小にして肉多きもの上品之此核を和の方書ニ巴実と名く本経逢原ニ其核大寒而伐肝脾と云云花暦百詠ニ定風珠と云ふ

ホの核を以て　ほうあひ人形の可もりニ造る食料ニ入或ハ加岩附より出る物核小く肉多し

枇杷

一種

薩摩に産する物実大にして柑の如く味ひ甚甘美上品の時珍の説に大者如雞子と云これ

楊梅　やまもゝ　楊家果 事物異名　楊氏子

龍睛　火實 共上同　アルビュチュスボーム 荷蘭

暖地に産し豆腐赤澤八幡野又上総房品に出つ樹高さ一二丈嫩芽の葉に八鋸歯ありて槲の葉に似て小く老樹葉には鋸歯なし瑞香葉に似て狹し冬凋まれ春月葉の間に黄白色の小花を生じ別の処に實を生じ形覆盆子に似て肌細く指頭の大さにして正円夏月熟し紫紅色味ひ酸く甘し炊豆に反する と云楊梅皮はやまもゝの皮と俗にもゝかはともふいきとも云染家にて褐色を染るに用ゆ

楊梅

一種　しろもち

水精楊梅　五雜俎

泉品月根及ひ河品に実白色なるものあり又豆及ぶもちゝと云甚麻之釋名に時珍北戸録を引て白楊梅為聖僧とゝふこれなり

櫻桃

やまらむめ　やまらむめ　京　やりさん　和品

かぶはさくらのこ　本草和名

朱英　秘傳花鏡

朱菜　証類本草

英桃　群芳譜

覓烏竜芽　呂祖全書

楔　本草和名引釈藥性

麥英　同上

麥桃　本草和名引菓名苑

凡唐山ハ種類多く和産ハ少し樹高ゝ四五尺春月葉に先て花を開く五瓣淡紅色形桃花に似て小く蕾三四一處に簇ゝ縦て葉を生ず櫻の葉に似て小く厚く微し毛あり五六月実熟ゝ郁李に似て尖れり小き核あり又郁李に似て尖れり

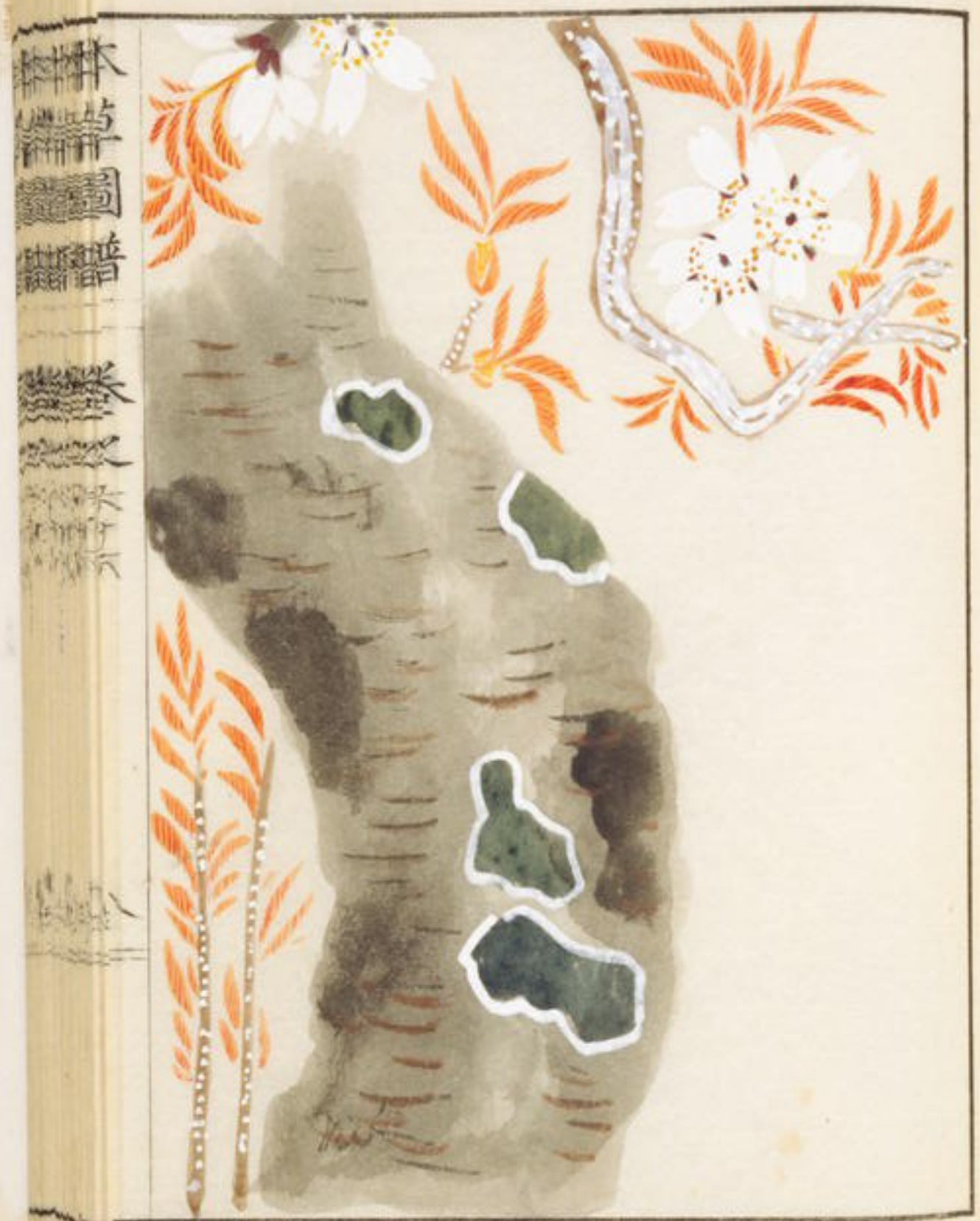
櫻桃

山嬰桃

あかゝもきくらゝ　てうじきくらゝ　江戸

棣子　急就篇

野州日光山武州上野信州水曽山中及ひ上総房州等の高山の深きに自生に樹一二丈葉ハ櫻桃の如し細鋸齒あり樹皮ゐらんさくらの如く花亦彼岸に開く五瓣水紅色大さ二三分花の莖長く蒂の形丁香に似たりゆへ名つく実熟して紅紫色大さ南燭の如し味ひ酸甘し房州の産ハ花大にして六分許りありて紅色美し櫻桃ハ人家に有て深山にあり山嬰桃ハ人家にあらく深山に自生ゆゑゆへに山嬰桃の名あり此ありてもさくらゝ千瓣の物を生し今多く花を称せらるゝ名さくらゝに至らなるべし此類数百種にして遠藥故ここに載せ



一種 やま さくら

大和芳野名産あり深山にハあし葉ハ李に似て濶く花ハ三月開く草辨水紅色大こ梅花の如し其実櫻桃に似て円く莖長し塩藏し食ましれハ酒の醉を解ゆ

銀杏
いちやう
木の名

きんぷん 実の名即ち銀杏の唐音なり
ちゝのき
仁杏 汝南圃史
白眼
靈眼 共ニ同上
白杏 事物異名 以上実名
公孫樹 汝南圃史
平仲木 正字通
火棗木 通雅以上樹名

人家多くあり樹高く葉へ數丈に至る葉の形鴨脚の如く春月一寸許りの穗を生し淡緑色の小花を横簇に秋月実熟に大き杏の如く黄色脂液多く内中に核あり白色にして二稜或は三稜あり核中に仁あり白色に炙る時は緑色に変に果となすべし花も樹雌雄あり雄なるもの実を結ぶに雄なるもの実を結ぶ花樹には枝の本より花の如き物を生に長き物丈余に至る土中に至れば根となるべし

胡桃

くるゝ　ヱヌム 蝦夷實名　子シロ 同上　タクチムヌ 朝鮮

スキスイユグランス 羅甸　核果 車物異名　蝦蟆 柳邦氏醇鄙仁の名

阿乞朝囉 梵語　播囉師木 同上

藥用には朝鮮くるゝに名唐くるゝと云を用ふべし樹高大葉は山胡桃に似て淺き鋸歯あり又漆の葉に似て鋸歯あり七葉九葉一莖に對生に枝の梢に夏月花あり栗の花に似て下垂に後実を結ぶ桃に似て緑色硬く中に核あり山胡桃より核薄く皺少なし微炮りて殻を去るときは砕きかたし仁に缺刻ありて牡丹花の如し味ひは尋常のくるゝと同し

山胡桃 集解　ふるミ　山核桃 八圖 通志

人家多く栽するもの漆の葉に似て闊く大に微し黄褐色のもあり核硬く皺あり一尖あり
碎け難く一種からはふるミと云あり越後の産ん核自ら開けて鳥の口を開ふる如し故に名く

一種　初めふるミ　めふるミ 加品

核薄くして皺少あり中の仁採り易く山胡桃の中にて仁全く採れ馬鞍の形の如くこ
故に上品とあり

胡桃　ふるミ

本草圖譜
卷之

本草圖譜
卷之
山胡桃

一種　權六くるミ

奥州邪麻郡大塩村
宍澤權六の園中の
産なり故に名く核の
小にして歴に榛とな
れへし甲州にも此
種あり

一種　てろじくるミ

羽州野代に形
円大にして殻
薄く手にて碎
き仁を出すべき
すのなり

榛

榛

たしハミ 和名鈔　　蓁栗 通雅　　任城果 名物法言

女贄 同上

庭除多く栽ゆ小木にして叢生葉ハ楡ニ似て濶く大く周圍に大小の鋸齒あること
虫の食ひたるに似たり肌紋理深く嫩葉に紫斑あり冬月枝の間に花を生ず穗なりして黄
色鼠尾の如く春月実を結ぶ殻あり殻中の実柯樹以の実に似て円く炙食ハ香美なり

一種

つゐたしバみ 尾勇　　かかもしハミ

奥州松前辺其餘北国にまゝあり葉ハ楡に似て微く毛ゆり樹大余に及ぶ花ハ前条と同く
唯実の殻長にして角の如く一房三五顆を結ぶ其実円にして尖りあり味ひ前条と同し

櫧子

かしのき　せうぶめ 志品　かしのき

圓櫧 物理小識

諸國山野並に庭際にも栽せ種類甚多し其ハ白色に微く赤ミあり若櫧より柔なり葉ハ茶に似て肥大に皺なく硬く鋸齒粗く裏淡綠色初夏葉の間に泡あり穗をなして栗花の如く長さ二寸許り黄白色別の処に実を結ぶ柯の実に似て肥大く初ハ青く熟せ此ハ黄褐色実の本に蒂ゆく形碗の如し実の味も濇し

苦楮 集解　つぶかし

此条ハあかしの実を云上品なり葉ハあかしの葉より濶く厚く堅くして鋸歯なく四時濶まれ初夏葉の間に花を開く栗花に似て細く短し実ハ蓮実の大さにして木に蒂あり碗の如し横に筋あり食用に此枝赤色にして堅く鉄炮の莖車の歯並に諸器に作る

一種　ながらあか　ながらの葉に似たる　あかしの内にて葉に鋸歯あるを　甚多し

龍柏芽 統荒 本草

苦楮　つぶかし

一種　ちらがあか

鉤栗　ちらがし　麪　櫧　桃子集解

ちらがしの材となして白色苦櫧ゆゑ柔之葉柯樹に似て鋸齒深きあり淺あり葉に狹き濶きあり葉の背白色又ハ黄色なるもの淡緑色の物あり春月葉を生ずるに早晩あり嫩葉白色の物紫色の物あり実より変ずるなり一ならず四月花あり栗の花に似て穂細く短く醒気あり実ハ苦櫧と同しく其蒂も又同し味ひ苦く渋し

一種　いちがし

尾外勢外ホホあり葉細葉のかしに似て鋸齒深く背並に並に黄褐毛あり実もかしに似て円し

鉤栗
ちくり

いちのかし

橡實

つるぶこ 和名鈔 本草和名

どんぐり 江戸 ぶんだんぐり 同上 上州

ぶだんぐり 信品以上実名 くぬき

かさき 江戸 とち 同名あり まのき 備中

うつき 豫州 ぶさいかし 伯耆

うハぐり 拔菴以上本名

橡栗 通雅

櫟斗 同上

黃栗 御理小識以上実ム名

椽 通雅

柘 同上

赤糯木 証類本草以上樹名

ヱイケボーム 和蘭

山野に多し高さ二丈許り葉は栗に似て頗る短く硬くして鋸齒あり樹に雌雄あり雄なるとの夏月葉の間に穗を下垂れ栗の花に似て瘠なり雌は枝の間に実を結ぶ又栗の子に似て細長く本に毬あり其をよめのときといふこの樹皮を和方書に土骨皮門皮國皮ともいふ此樹の炭を池田炭と云又薪によろし

槲實

なぐのき　なぐ　以下成名　わそ　和及　まき

ぬりしかしも

山野に多く栽て炭薪となれなりとそかしも等各類して大同小異なり葉はかしもに似て微し薄く小く秋の末に至り紅黄色になり落葉れ初夏葉の間に花を開く栗の花に似て細く短し從て実を結ぶ様実に似たり蒂にまゝ同し実味ひ苦く涼し根土に栗の毬の如きものを生れ実に非れ虫の巣之白色の長さ虫ありこの巣をなぐどう又ぬりじのぶぐりともいふ

槲實
なぐのこ

一種
樹あなぐと同じく
葉はあなぐより微し
大之実又同し

枹 集解 ちかう

青岡樹 救荒本草

敦落樹 内蓬著集解

字落葉 鎮江府志

こうぶうしハ

葉本狹く未廣くして尖り粗き鋸齒あり秋月葉紅色になりて落葉に初夏花あり形前條と同し實も又同し味ひ苦く渋し

一種

葉前条より大なるもの

一種

葉又前条より大なるとの

一種

こうなら

葉前條に似て薄く鋸齒をしまみの如し

一種

葉前條より
小なるもの

一種

葉さながらより大にして
狹く長く秋月紅色に
なり落葉は此実本条
に云棚実人大く円くし
て殻あるを橡子の如し

本草圖譜卷之六十七目録

果部 夷果類

荔枝	一	同	初生 二
同	葉	同	實 三
同	物印忙に載る圖	同	同上 四
同	同上	龍眼	五
同	六	同	實 七
橄欖	八	同	大葉 九

大葉櫟

釋名

かしは　もちかしは

葉ハ[illegible]に似て大く厚く秋月黄褐に変ず落葉せずして新芽を生ずるに至て落る春月赤葉の間に穂を[illegible]栗に似て小人実を結ぶ形橡に似て小く長さ故に円し

同	実生	十	菴摩勒 物印忙ニ載ス圖 十一
一種	同上		一種 十二
毗梨勒	物印忙ニ載ス圖	十三	一種 同上
三歛子	同上	十四	榧實 かや 十五
一種	ミなりかや	十六	一種 いぬかや
海松子	てうせんかやう	十八	檳榔 十九
同	四品	廿	大腹子 廿一
同	三品	廿二	

本草圖譜卷之六十七

東都　岩崎常正著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

果部　夷果類

荔枝　リチアン 唐音　リツイ 南京　リチイ 福品同上者荔枝の唐音より轉せしなるへし

紺殼 名物方言　大荔 廣東新語　飣坐真人 群芳譜

皴皮 唐熙字典　將軍樹 群芳譜 木の名

和産なし古渡りハ二三十年絶て来らず文政元年に新度多くあり
殻大さ八九全形擴椰子の如く皺紋ありて犀皮に似て黄褐
色これを破れハ肉挾に付いて棗肉の如く味甘し挾ハ指頭の
大さ脂多く龍眼の挾に似て長し荔枝龍眼ミな日を經れハ
色味ひ変するものゝ生なるときハ甜水殻中に満てゆゝよ
しゝ樹ハ南方暖国嶺南の産にして寒地にハなし荔枝の
ことハ蔡襄の荔枝譜及ひ閩書の南山志に詳なり荔枝
の写生するゝ琉球より来るこれを見るに葉ハ木惠子に似
て淡緑色其花穂をなして開くときハ白色実ハ房を引て
葡萄の如し天保年中に小水来る高さ一尺余枝葉互生
し木穂子の形に似て葉ハ一莖に六葉対生し木樓子の
葉より稍厚し

同

初生の圖

同

葉

同

舶来の実の圖

同

同上小
載る圖

同

柳印花小
載る圖

同

同上に載る圖

龍眼

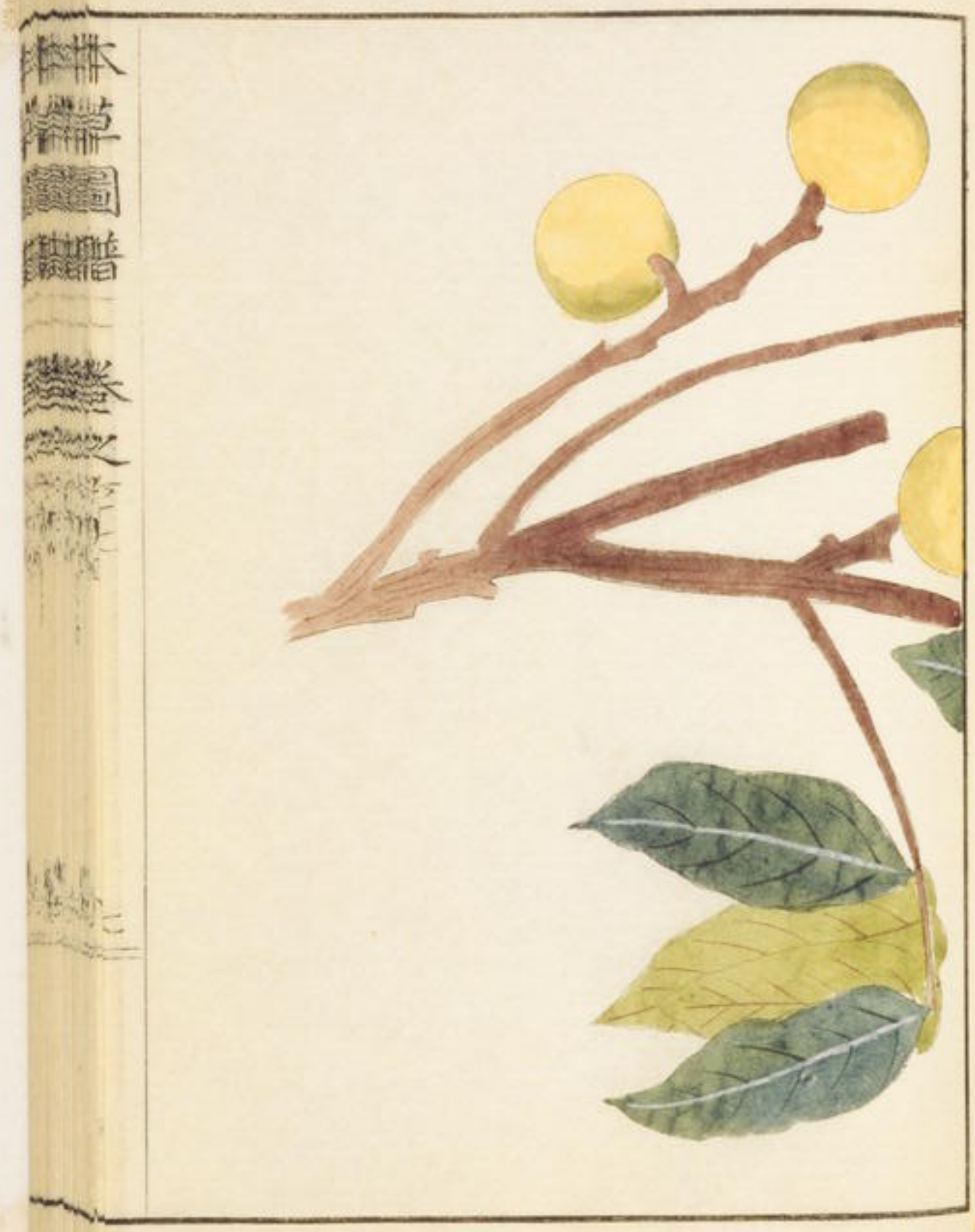
繡水團 群方譜　海珠蘘 同上　益志 本草乘言

細茄 廣東新語　養樹 同上　歌枝 同

龍目 本草和名引爲文　地目 同上

嶺南八國等の暖地の産なり舶來の物ハ正圓にして大さ六七分茄枝ゟ稍小く殻黄色にして薄し中の肉棗肉の如く味ひ甘美なるとき茄枝の如し生なるものハ甜水殻に滿ち日を經ルハ味ひ変して肉と殻と離るゝ也を眼ハ音あり枝ハ茄枝に似て圓く無患子の如し生本琉球にありて其寫真を視るに葉ハ無患子に似て深色茄枝の葉に似たり四葉六葉一堂に對生れ止りの葉あり五瓣の小白花穂をなして開き実ハ葡萄の如く房をなし又全葉唐山より渡るとも琉球の圖と同し又本邦にてハ薩州の南邊山川に載るもの大木にして近年多し実を結ぶ形状舶來に異なるをあし唯頗る小なり田村氏云これハ人眼鬼眼の類なるをしと云ふ龍眼種類多きを閩書南山志に詳なり大なるを泉州府志に虎眼とし中なるを龍眼とし共次を人眼とし

龍眼
天保年中
薩別より
江戸へ来る
物



同
文飛薩州
ふて種もう
所の奥圖

同

舶来の
実の圖

橄欖　橄棪 雅通　味諫 同上　感 陸子 典藤 便覽

嶺南畯地に栽るまし喬木とおり其実渡る脚塩藏蜜漬にあれ
とのあり生乾ふしたるもの稀に梓渡るをあり内ハ外にありて胡桃の
如し尖りありて長く核も又胡桃に似て長し大さ柯子の如し両頭尖
れり中に細長の仁三箇あり生乾の新ふるを植れハ生れ嫩葉三
尖ありて對生し長さ寸に從て一葉互生れ其葉冬青に似て長し
大樹となるときハ一莖に八九葉對生し胡桃の葉の如くなれ全葉なり
嫩芽紅色を帯に蓋を恐るゝ冬ハ蠶中に納むべし大樹ハ長崎
崇福寺及び薩州にハ多く実を結ぶもの あり花五瓣白色な
負花に似て横族はこのこよし毒を解し骨鯁を治はこの実
製し舶来するものを青果膏と云ふ

敝覺

同

大茶

同

実生の圖

菴摩勒

キユアヤキユス 羅甸　ボツクホート 荷蘭

物印牠ハ載る圖葉ハ合歡ニ似て一莖六葉対生し止リの葉ハ枝の梢ニ房をあして花を開く梅花ニ似て黄色紅の斑紋あり 蘂紅色実赤房を市して外皮淡黒き斑紋あり

一種

同書に載る圖前條より葉細く花五瓣淡綠色のもの

一種 金合歡

アラビヤ一ヶ
此物ゟ采なる
脂の名ふり

此物文化年中琉球より始て種渡る藤蔓なり葉ハ合歡に似て小く夏月花あり又合歡に似て一房なり大さ四五分黄色みて円き毛をなし香氣あり後二三寸の莢を結ぶ此物より採りたる脂液アラビヤコムなり集解蘇頌說とあるに相似たり此物危も寒を恐るゆへ冬月窖中に藏すべし

毗梨勒　メイロハラヌス羅甸の一種

物印忙訶梨勒の類の内に載る圖葉ハなきの如く互生し実ハ葉の間に互に着柯の実に似て豆に殺あり外皮淡黒色斑紋あり

一種

同上に載る圖葉ハ柯樹の葉に似て濶し突風に似てふく黄色淡黒の斑紋あり

三歛子 五歛子集解

同上に載る圖葉ハ南燭に似て並ぶも葉を附し尖桃の如く三稜あり外皮紅黄色淡黒の斑紋あり

インチゴヘラ 羅甸 インヂコ 荷蘭

榧實　かや

大和芳野名産く又紀州高野山其外諸國にあり樹ハ木本とする葉ハ擬に似て葉の先又ふく一針く春月葉の間に花あり黄白色形木蘇の花に似たり秋に至り実を結ぶ円くして両頭尖り緑の皮を去れハ中に核あり核の中に仁ありぶぶりもにて包む仁味ひ澁し炙食ふ此木堅くして材とする事ハ

一種　ころかや

中國より出つ形同くして稍円く黄白色澁味少く上品なり又甲列より出るころかやハ形小く円く黄白色澁味ふく上品なり

一種　くろかや

尋常のかやの如くにして形短し仁の外黒色を帯ふ

ろろかや
くろかや

樅實

一種

ミなりかや

形状りやと同
ケて唯一二尺の
小木にも実を
結ぶ其実大に
して円し

一種 いぬりや

あかぶりや づくりや

ぬやら 幾

山中自生あり葉ハ梔
ニ似て梢短し柔ニ秋
葉の間ニ実を結ぶ円
くして稍長し熟して紅
色内中挾あり梔ニ似
て扁くして二稜あり花
食せん毒ありとつゝ唯
搾りて燈油ニ用ゆ

海松子

とうせんごさう

享保年中朝鮮ヨリ種渡リ官園ニあつて大樹となる五粒の松の如くにして葉長く二三寸白粉色ニあり毬甚大にして長さ五六寸周リ四五寸鱗甲の間に実あり大さ脂頭の如く皮厚ふして稍稜あり仁をとり生にて食を礼ハ香美之地に下して能生れ

檳榔

あらまさ　本草和名　椶然　樋仁郷　類書纂要

無柯子　本草和名引兼名苑山檳榔

木實　ハウヘル　羅國

アレツカ　荷蘭

和産ニし暖園の産ニあり和蘭の書物印忙に生園はゞ樹ハ椶櫚に似て毛ニなく枝ニし葉又椶櫚の如く車輪の如くにして芭蕉葉の如く長くして火蕉に似て肥大なり葉の本に房をなして子を結ぶを数十顆形椶櫚に似て粗し実の蒂茄子に似たり大さ桃の如く生ぶるハ緑色熟スれハ紅黄色なり蘇頌の説に以作難心状と云是なり舶来のもの二種あり長ケて尖るもの真なり円ケて扁さるものハ猪檳榔にして大腹子なり蘭山の説に形狹て両頭尖り龍の実の如きものあり是椶身檳榔なり檳榔ハ味ひ渋し微しく甘し大腹子ハ甘さ味ひなしと云ふ中嶋氏割り檳榔ハ横に切て来る花檳榔ハ未熟の物ハ見るといへり今官園にある檳榔ハ岑成舶来れ高さ四尺許りにして芭蕉を裹る蘇頌の説に生食ハ其味苦渋得状留藤炭尾屋子灰同咀嚼之則柔滑甘美也といへり状留藤ハ和名さんまと云とめふ則蒟醤く尾屋子灰ハ蛆の殻の灰なり且の檳榔とあかりいの灰とをさんまの葉へいゝえ常に果とし客に供れるをいふ

檳榔

檳榔子

四品

大腹子

ヒーナンエカーレ 蒼甸　ビーナンシャール 江右語

大復皮 萬病回春　腹皮 上同

和蘭の書物印地に檳榔の類の寫生あり葉幹檳榔と同しく唯長き穗をふし一莖に數十顆を結ぶ其實李の大さにして円しこれ大腹子なりへし舶來の檳榔の内に形円く扁へして丈ぶるものを大腹檳といふ藥店にてこれを檳榔と云ハ非なり時珍說に檳榔中一種腹大形扁而味涙者不似檳榔夫ノ長味良耳と云是なり大腹子の皮ハ椶櫚の毛に似て細し檳榔の子にも皮あり相似たり時珍雲南記を引て大腹青時剖之以一宅蔞葉皮蛤粉煮和食之といふ蔞葉ハ和名さんまと蔞藤の畧なり蛤ハもはんりあかしひ等を云大腹子も亦食さるものを云檳榔と一類なり

本草圖譜卷之六十八目錄

果部 夷果類

椰子	物印忙の圖	一	同 同上 三
同	実	四	一種 ウミヤシナ トノ子穴の圖 五
一種	漂着する物	六	寒瓜 集解 西瓜あり
青田梜 附錄			樹頭酒 附錄 具樹 物印忙の圖 八
嚴樹酒 附錄	不詳		無漏子 そもつのこ 九
一種	琉球そもつ	十	一種 ちろこけ

同

三品

光榔子　つぐ　十一
同　幹　十二
同　實　十三
同　物印忙の圖　十四
莎木麪　不詳
波羅蜜　十六
同　物印忙の圖　十八
同　同上　十九
同　同上　廿
同　同上　廿一
無花果　いちゝく　廿三
一種　まろいちゝく　廿四
文光果 附錄　不詳
天仙果 附錄　てんせんそくく　廿五
一種　もつかうかく
一種　ヒキユス　廿六
一種　さしやと　廿七
一種　あかくり
古度子 附錄　むすんのき　廿八

本草圖譜卷之六十八

東都　岩崎常正著

男　岩崎信正

門人　小山廣孝校

果部　夷果類

椰子

コーコス 羅甸　インチアーンセノート 荷蘭

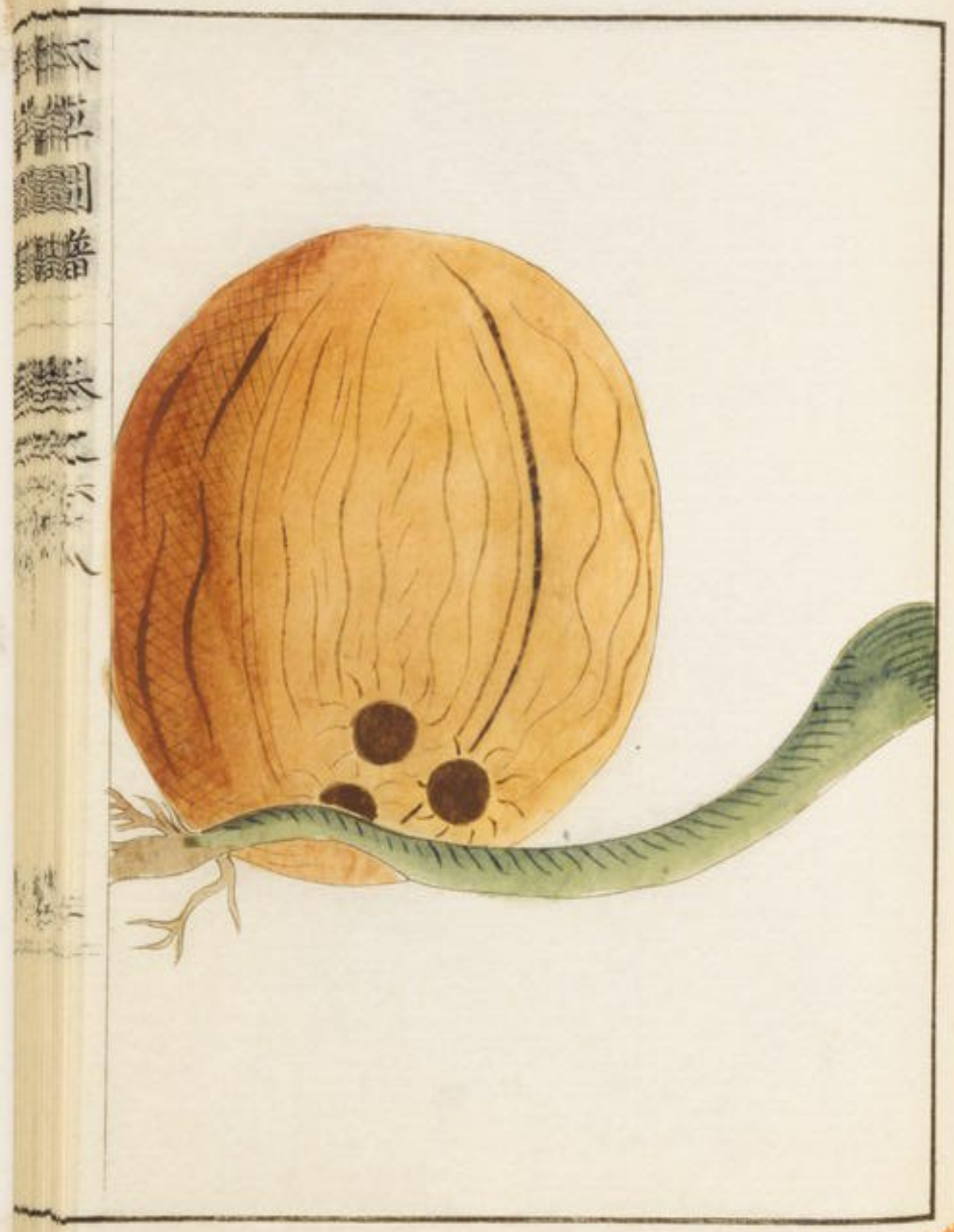
パルマイヂカ 同上　酒樹 潜確類書　矮胡 名物方言

楕枒 通雅　哥具 東西洋考 呂宋方言　無葉 齊民要術 引神異經

倚驕 同上

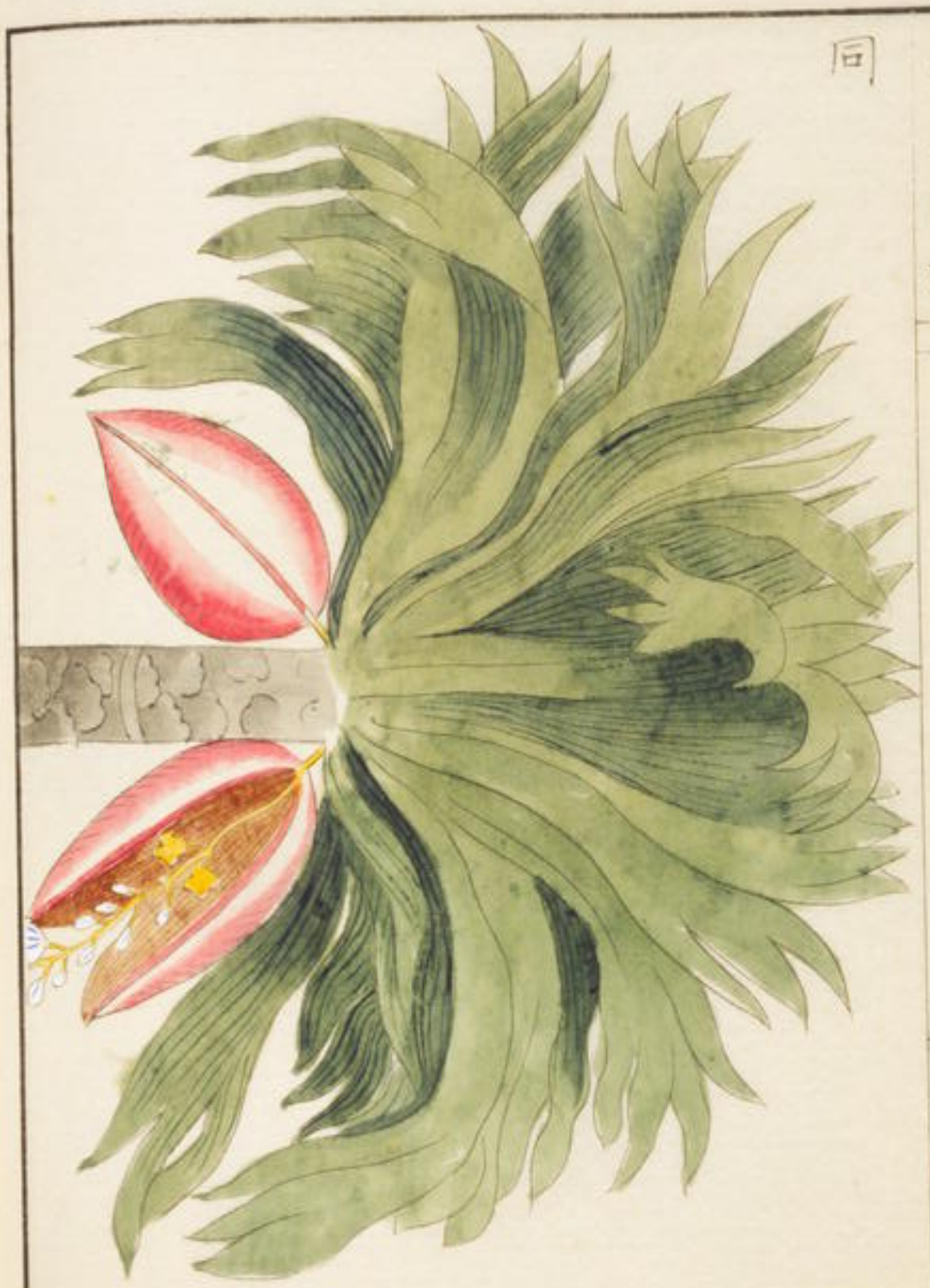
暖國の産なり無人島一名小笠原島に生樹あるゆしこの実房外豆州八丈島四國佐渡其余海濱に漂流し来るを拾得るもあり其初生より全形和蘭の書物印忙に圖あり初生ハ若葉に似て三四葉互生し根に椰子を附し老樹ハ幹肥大かして高く聳ゆ樹皮灰白色処々節ありて罡紋あり頂に

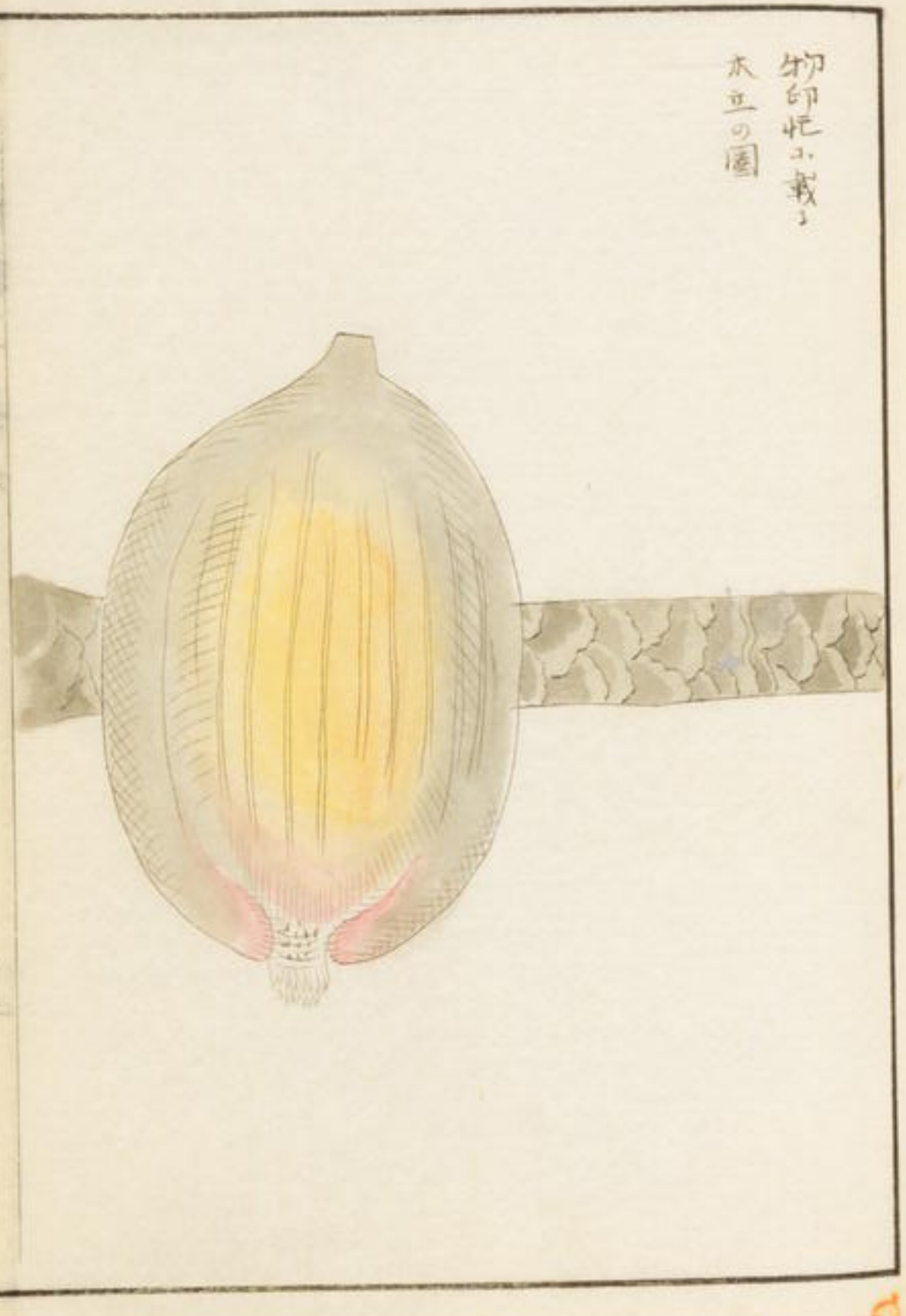
葉を生し数葉叢生し其一葉ハ形簪の如くにして長く先四五尖りあり葉の本に花を生し二瓣相合ふ其一瓣荷の花瓣の如し開く時ハ中より穂を生し数花攢生し四瓣黄白色なり実の大さ圍り一尺長さ四五寸外皮ハ掠擱をつゆなる如し皮を去るとき殻堅く厚く羅紋ありて本に三孔あり釈名に越王頭と云この殻を二つに割て盃に作る殻中に肉あり白色にして畧南蛮蠟に似たりこれ椰子瓢と其中に空にして水あり これを椰酒又椰子漿といふ又其中に桃実の如き物あり是椰心なり椰子油ハ蛮流の外科多く用ゆ荷蘭にてターテルラーリー又カテツフルともいふこれ核中の肉にして脂液の凝たるものなりこれを煎して油を採り用ゆ能金瘡腫物の肉をあけ愈れ



椰子
物印忙に載る初生の圖

同





物印忙に載る
木立の圖

同 實

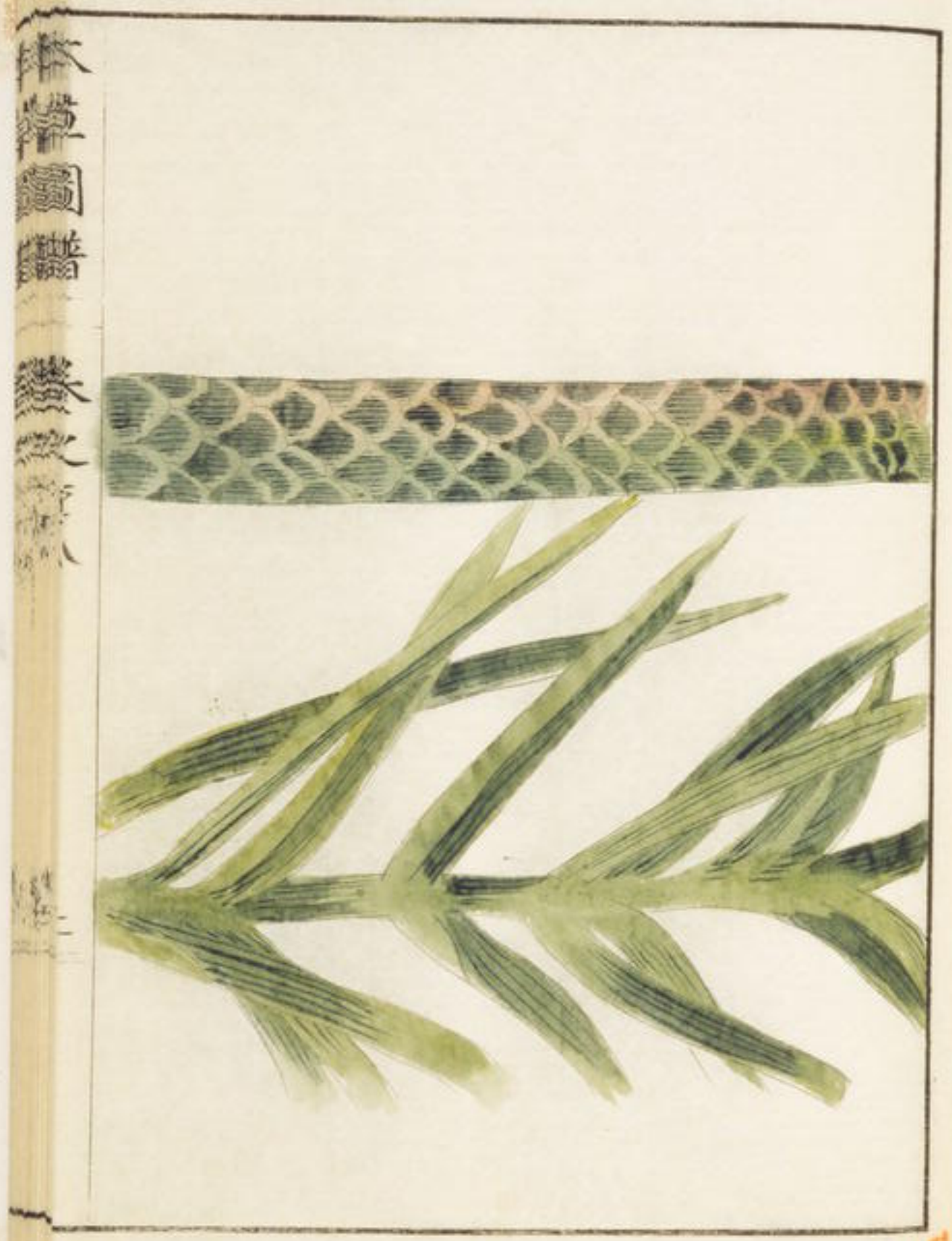
一種　ウミヤシホ

トヽ子ウスニ載る圖又
海濱へも漂着れ形
椰子より小く二寸許
り圍り二三寸外皮ハ椰
子と同し内ハ堅き仁
ありて中実れ仁を削
りて藥ニ用ゆ中風を
治す効あり價賤
ゆゑ田村氏ハ廣東
新語の石椰子ハ充つ

一種

これ亦海濱へ漂着せ
るものなり形椰子に似
て短く長さ三寸許り圍
り五六寸四角ありて碁
盤の足に似たり故にも
そんのあしと名つくこれ
又椰子の類なり

寒瓜　集解　西瓜之



青田梜
附錄

物印忙に載る椰子の類にパルマタクナリベラ（羅甸）ダーデルボーム（和蘭）其形ハ棕櫚に似て毛なく火蕉の如き鱗甲あり頂に葉を生ず其葉の形檳榔に似て長く葉の木に房を分して実を結ぶ実の大さ胡桃の如く黄褐色桃に似て細し漢土にて椰子の類に附るものあれハ恐くハこの類なけん

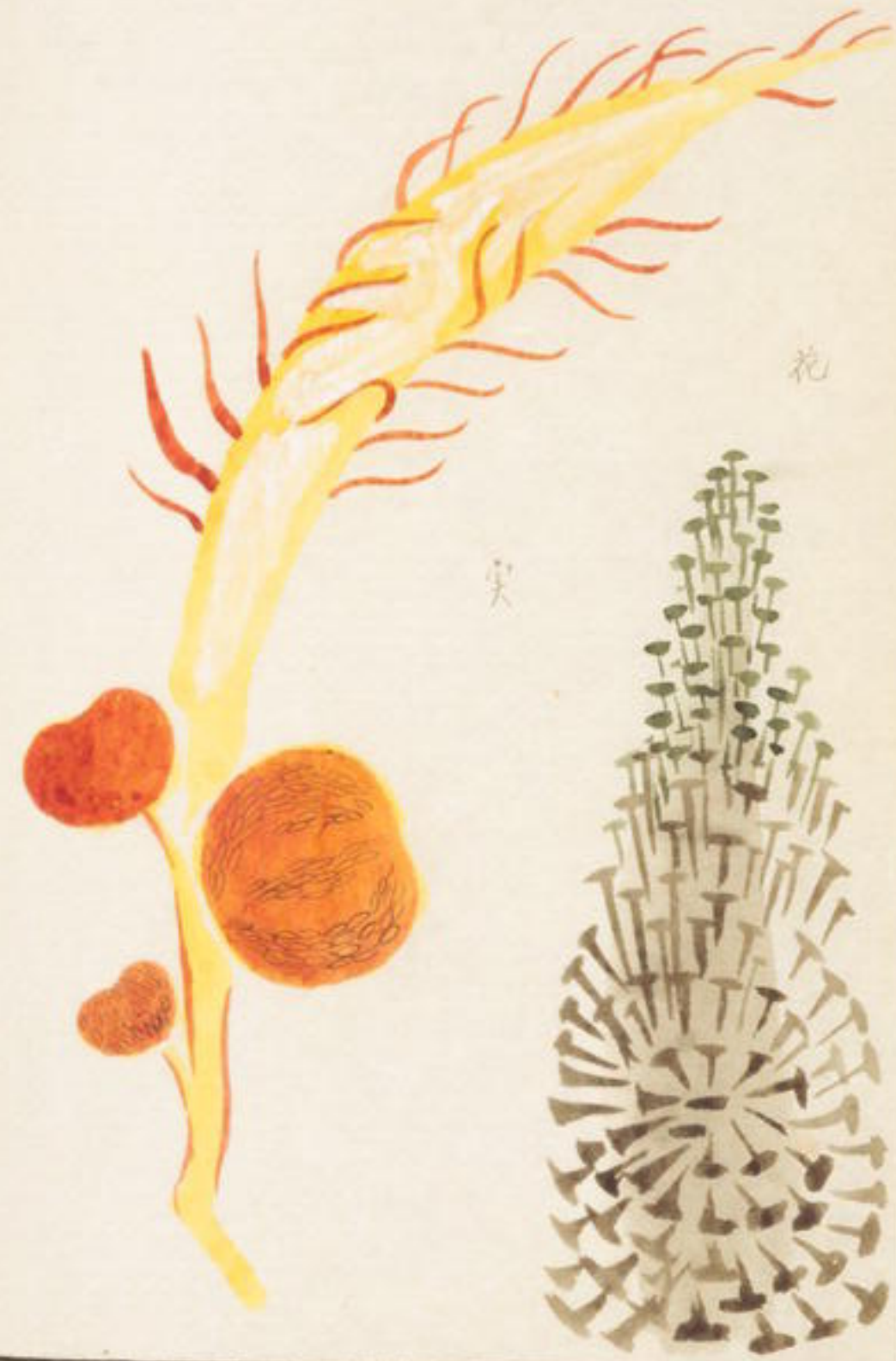
樹頭酒　附録

注に貝樹人といへり此貝樹ハ即多羅樹なりこの実あり採る酒人昔天竺にて梵字を以て経文を書ふ多羅葉これなり（今俗にあづりまに似たり木を多羅葉と云これハ冬青の属貝樹とハ大に異なれり）この葉蘭人稀に持来り又唐さんとあの間に挟て稀に渡るをもつて寺院什物となるものにハ梵文を書ふものなり葉全きものハ長さ四五尺濶さ五寸許にして厚く枯て褐色なり中に大節あり脉ミな淀にとおりて萬年青の葉の如く洲譯名義集に西域記を引て南印度那補羅國北不遠有多羅樹林三十余里其葉長廣其色光潤諸國書寫莫不采用と云古今注に酒人取其葉寫書且と云これ人蘭山説にこの葉を竪に細く切席に織りたるをアンペラ（和正）（寄語の鶏人と云）と云東西洋考に貝多羅葉と云これ人物印忙椰子の属の中にペルマギュイ子ーシンスヒニヘラ（羅甸）ウエインケーヘンケバルムボームとムものあり樹皮滑澤にして芭蕉に似たり樹の頂に数葉叢生れ其葉長にして先円く萬年青に似て長大又洋急葉（もまをして）に

無漏子

一種 琉球 そてつ

一種 ちろとけ



無漏子

そてつのミ　蘇鉄　中山傳信錄　鐵樹　同上同名多し

火蕉　物理小識

暖國に多く寒國に少し因て暖外房昜薩昜に多し樹高さ丈余周り二三尺枝あり皮委く鱗甲をなし頂に葉を生ず黄衰ゆるをてつに似て長大之暖地にては花を生ず形松毬に似て長さ二尺許り黄褐色別に実を結ぶ実の茎島の足に似て黄褐色毛あり其元に実を結ぶを三五顆形塩梅に似て痛く赤紅色内に核あり銀杏に似て大に中に白色の仁あり生にて食ふ味ひ胡桃詩に似たり餓を助く

一種　琉球そてつ

琉球古米嶋又大嶋にあり幹瘠て枝多し葉細く短し金栽として玩覧し

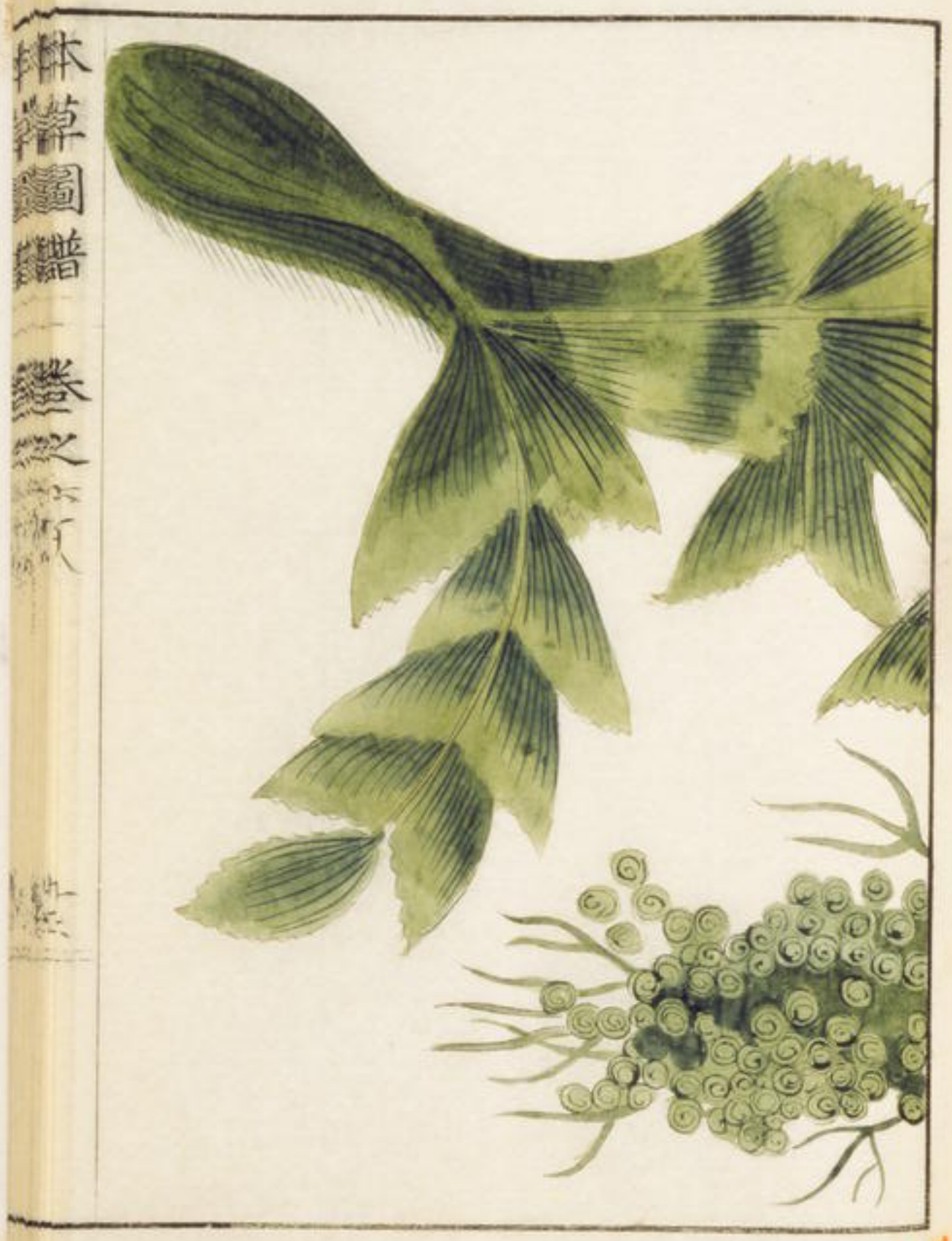
一種　しろこけ

幹瘠て細く鱗甲白色にして美麗なこれ亦琉球の産なり

同幹

元漢種ノ又琉球ニ生ス産ニ享保年中西土の種入丈島ヘ栽セシ此今大樹とあり
一幹直立シ枝おく椶櫚の如く葉もまた椶櫚に似たり形奥の鰭の如く左右に附し太ク
葉ハ一葉を一人ニて負ヘし葉の間に穂を刷して実を結ぶ形椶櫚に似たり地に下して
能く生れ樹皮の毛椶櫚より太く淡黒色ノ尖毛を以て刷不に作ちこれを結ぐを
けと云又大船の頭へ附け或ハ船の繩とおれ

円実



同 ハウヘル 羅甸

物印忙ニ載ス圖

波羅蜜　榮蘭 薩州　鳳梨 臺灣府志　露頭花 廣東新語

阿咀呢 傳信錄　アナ・ス 蘭書物印忙

文政六年琉球種薩外ある来る葉の形蘆薈に似て肉ぶく薄くして硬く舟底の形をなし脊あって茅の如くもと一寸餘長さ一二尺周りに刺ある葉の背の脊に逆刺あり葉の落たるあと節をなして赤蕉（芭蕉ありて）に似たり根の傍より芽を生ぜ甚を恐る蘭山の説に此品初め葉生して萬年青の如く刺多く薩外にて榮蘭と呼ぶ琉球にて阿咀呢と云ふ年久ふして丈余の高さになれば実を生ぜ其実は外の周圍に六角なる堅き挾あり其挾の末に各長き毛あり墨を染る

文字を書けつゝ俗にあたんふてと云即ち木生毫是之其毛ある方を内にして数多く並び付て瓜の形をなれば其挾をとりさらときは中心に軽虚なる綿残れり味ひ甘美にして食用とす今器中に漬たるは其様なりと云り

本草圖譜 卷之

本草圖譜 卷之

物印花ハ載ス図

實佛手柑の大さ或ハ甜瓜の大さなるあり和蘭本草ハ肉甘美香甚佳人齒を純ハ出血するをあり沙糖漬とし食して胃を強く陽気を盛ハ其ハ浸りて酒ハ釀ハ夏婦ハ妾ハ用ヘいられとつくり

同

同上ニ載ル圖

同
同上ニ載ル図

無花果

いちゞく　一熟の分ふるへし一枝の実一日にして一つ熟す　ゝくりゞき　大田

ヘイゲボーム　和蘭　映日紅　典籍便覧　密果　群芳譜

仙桃　三才図會　青桃　同上

寛永年中西南洋の種を得て長崎に栽せと大和本草に云り樹高さ一二尺許り葉は構葉に似て大にして厚く縫淡背白色を帯ふ葉を切ハ白汁出て乳汁の如し円茎節あり枝幹の中心空穴あり夏月舊枝の節間に一果を生ず乳頭に似て大にして長さ二寸許り下垂に熟せずして落これ花なり花と実と形相似たる也へに古人無花果とは秋に至りて葉の間にとに一果を結ぶ大さ一寸餘頭円にして平に尾尖れり一日に一果熟ず故に名く熟あれハ紅紫色自ら剥て内に内あり雞冠花に似ず味ひ甘しこれを食ハよく痔疾を療ず又葉を末とし服せるも良し

一種

しろいちゞく　薩外

葉は鶏桑葉に似て大にして厚く又いちゝろに似て刻缺深く実の形無花果に似て熟して淡緑白色味ひ甘し

無果花

一種

しろいちごく

天仙果

てろせんいちごく

おんきんいちごく

いぬぶ豆

細葉短葉の二種あり
東國にハ短葉多く
柿の葉に似たり西國
にハ細長葉の物多く
幅一寸長さ四五寸ゝ
樹皮無花果に似て
枝細く二種とも夏

月実を結ぶ形
無花果に似て小く
熟せれハ紫黒色味あり
甘し

一種 もつらうぶく 尾州

ちゝのき 伊勢

ヒクユス 加蘭

葉もつりまゝ似て長く肌へ無花果に似たり木も亦同し

夏葉の間に花ふくして実を結ぶ大さ指頭の如し熟さ此ハ淡紅色なり

一種 ヒキユス 羅甸

トヽ子ウスに載る圖此木高き枝下垂して地に附く時ハ根を生ず其間を人性来れとゝへり

一種　さしやと　薩州

根樹　江戸　花戸

ガラマル　琉球

ヒキユス　蘭人シイホルト

赤榕　海物異名志

科樹　同書

葉ハ冬青ニ似て厚く互生し秋葉の間ニ小さき実を結ぶ形無花果ニ似たり熟して紅色なり　此木高き枝下垂して根を生し終ニ大木となる

一種　あかり　慶外記ニ入

あこうつき　同上

あこきのき　肥前

あこき　軟

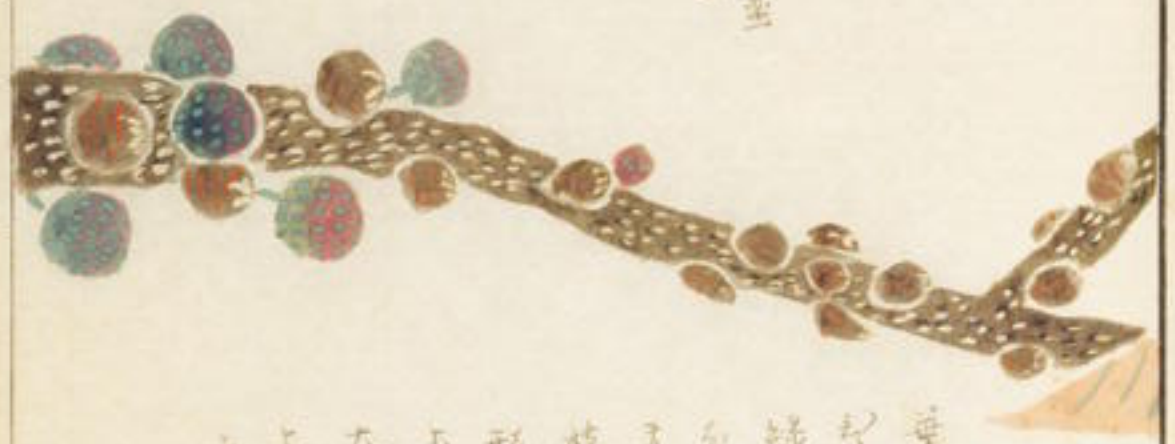
沈香木　江戸　花戸

フイーグス　蘭人ノ　ホルト

ウヲルテルボーム　荷蘭蟲　語箋

榕樹　嶺南榮木　圖書南山志

陰樹　南方草　木状



葉ハ白楊ノ葉ニ似テ短くまゝ
おゝん樹の葉ニ似テ尖リ少く深
緑色ニシテ厚く秋ニ至リテ花
ヲ出シテ枝幹又根ヨリ其の苗皮
まゝも多く実を簇附ルヿ地木の
枝梢ニ加ヲリ実を結ぶ異なり
形天仙果ニ似テ大き梧桐子
より肥大之此もの元蛮産之木
大樹なるを又土而把茲ニ生ルヿ
あり　薩茲ニて此樹ハ生ルヿ木耳
をあかるなりと云ヘリ

古度子
ゑよんのき

やまもち　ゆすのき　筑前　柁　北戸錄

蚊子木　蚊の子下　蚊母樹　蚊母鳥の下

西國にて多く播籬とあに葉ハ冬青もちに似て冬凋まれ春月葉の間に小紅花を開き小黒実を結ぶ例に枝の間に形ち無花果に似て中空にして大き母指の如き物を生ぜこれ虫の巣之中に小虫あり又葉に疱を生ぜ微し紅色これ又虫の巣あり此材色を附て櫛に作る

本草圖譜卷之六十九目錄

果部　夷果類

阿勃勒	南蠻さいかし	一	同實 二
同	度々涅斯の圖	三	同　物印忙の圖
同	同上		同　同上
羅望子附錄	同上		同　同上
沙棠果	きむよとうしぶるし	九	一種　まぐり
一種	物印忙の圖	十	一種　やしやゆしかく

棎子	物印忙の圖	麂目	不詳
都桷子	同	都念子	やわたん
一種	もしのんぞく	都咸子	物印の圖
一種	同上	摩厨子	同上
一種	同上	一種	同上
齊墩果 附錄	ちゑやのき	一種	
一種	まくらんぞく	德慶果 附錄	不詳
韶子	物印忙の圖	馬檳榔	新渡蘭書の物
枳椇	なんてあし		

本草圖譜卷之六十九

東都　岩崎常正　著

男　岩崎信正

門人　小山廣孝　校

果部

夷果類

和産なし先年舶來の葉を寫
生は一莖に五葉六葉對生は形土圖
見ゆるの葉に似て甚肥大く

阿勃勒

南蛮 さいかし

さくらか 長崎方言

同實

紅毛人持來る実人形円く大き母指の大きかして長サ三尺許り黒褐色中に数十の隔ありて隔とに一子あり大き二分余にして褐色あり

同

度々涅斯に載る處の圖

同

カツシヤ　ヒスチエラ　エキス　インシユリス　羅甸

ヘープカツシア　荷蘭

物印忙に載る図
葉の形椿に似て
花五瓣黄色にして
紅葉あり花は穂
を刈て葉の本に
あり実は皂莢の
如く長さ一尺許り
あり

同

カワシヤ。ヱゲ
イナチカ ビュ
ルガトリキス

羅甸

物印忙ニ載ル圖
葉ハ前条ヨリ小
く一茎ニ対生
葉の本ニ花を
開く前条と同

同

カツシア。ヒスチユラ。ブラシリアナ。ペーブ

カツシア 羅甸

物印帀に載る圖葉の形柿の如く梢に穗をなして花を開く形前条の如く葉の間に四寸許りの莢を結ひ下垂す形状前条に似たり

羅望子 附錄　クマリンヂュス 羅甸　クマリンデンボーム 荷蘭

物印花に載る處の圖葉の形皂莢に似て先凹に分り花の形円瓣の物と鋸齒ある瓣の物と重り生し色ハ白色に微し褐色を帶ふ実の形ハ蠶豆に似たり

同

同上に載る圖葉の形又皂莢に似たり梢に穂を引て花を開く三瓣或ハ四瓣五六瓣少し下瓣の外ハ淡紅瓣の内ハ深紅花中より淡紅の蕊を吐く鬚の如し莢ハ蠶豆に似て三四寸熟ゟ孔ハ茶褐色人

羅望子

同

沙棠果

きいよとう　しやうご　京
やぶさんせし　もまなし　江戸

山野科にあり数尺の小木之葉ハ牻牛児苗（りんのあやこ）に似て深き鋸歯ありて三葉に分れ葉の周り粗き鋸歯あり　冬月に至り葉落る春月葉の間に五瓣の淡黄花を開き随て小き円き実を結ぶ熟して紅色臭あつて稍さんせしに似たり味い酸く甘し

一種

まぐり　尾張

甲及ハ自生あり形状きむよとりふゆらぐと同く唯枝の間ハ刺あり葉の間ハ五瓣淡黄色のかき花を開き細長き実を結ふ下垂して淡紅色あり

一種

リベス　羅甸

アールヘシーン　荷蘭

物印帀ハ載る圖葉三稜ハして鋸齒あり花房を分して長く淡黄緑色五瓣之實花の下ハあり

実の色淡紅ハして脉あり又白色の物あり荷蘭の説ハ実の滴甘を帯てつゝり

一種

やまや
ゆしゆく

天の梅

てんうらたい 四段

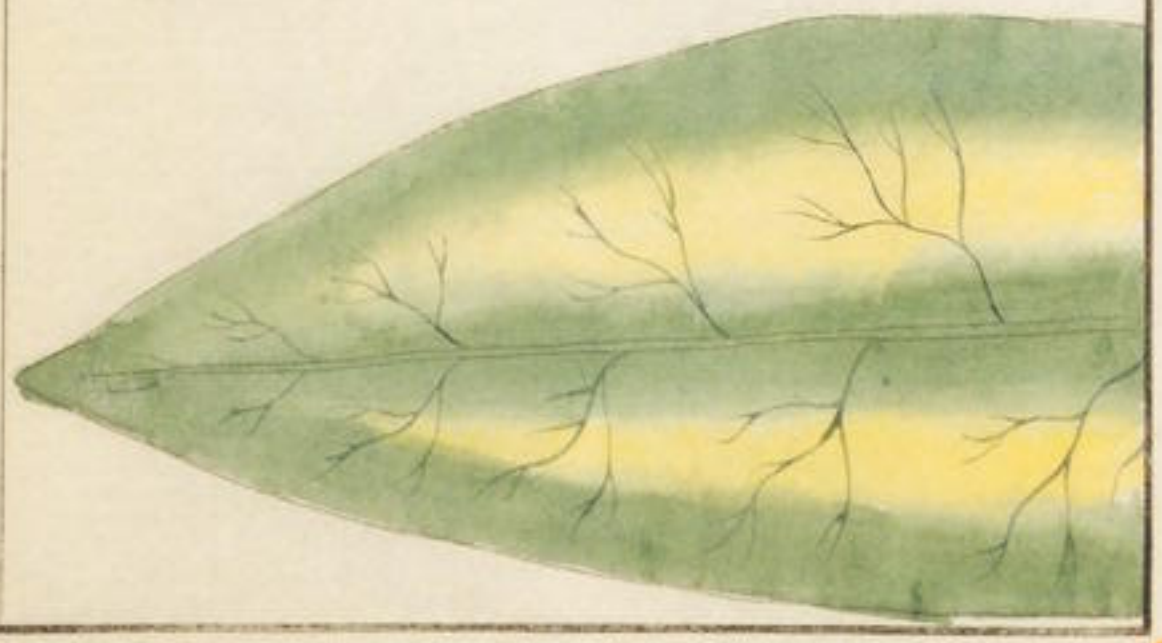
上品ときむめ
又志ゆりいたとり
と云木上に寄生
葉葉ともふきひ
ちとりしやうこに
似たり高さ大余
夏葉の間に花を
開く五瓣白色
人後実を結ぶ
長さ五分ばかり
毛刺あり蒼耳
実の如く熟して
赤色味ひ破し

梁子

キユツヤヒユス 羅甸
ダーヤヘス 荷蘭

物印忙に載る圖葉
の形牛膝に似て
鋸歯あり花は山茶
に似て白色之荷
蘭の説に木二丈許
皮滑澤赤緑色
を帯ぶ葉

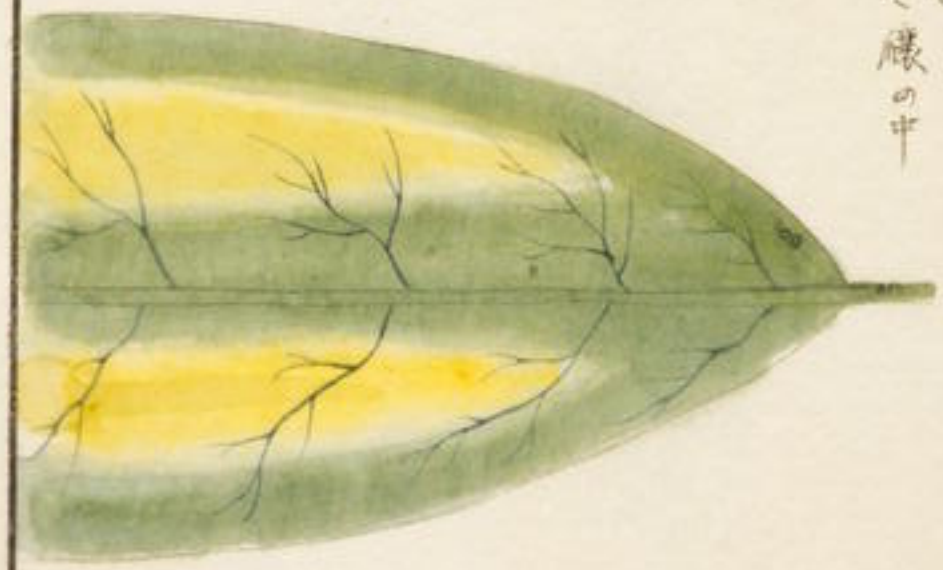
粗糙ち芳香花
白く実黄緑穰
白く味ひ甘熟せ
ば乳は淡く黒く
黒ふして多し



都桶子

ゲニパパ 畺甸

葉の形析に似て至て長く大小花五瓣淡紅色実ハ両頭尖り皮厚く膿の中に数子あり



都念子

やぞたん

雷丙花 傳信錄

和産なし近年琉球より来る今世に多し小木にして葉ハ柱に似て短く三の縦紋あり對生をなし茎葉ともに黄褐色あり夏月枝の梢に五瓣の淡紫色の花を開く頗る木槿花に似たり実ハ石榴に似て指頭の大さ毘四瓣あり熟して紫黒色となる時珍の説に花似芍薬紫子頭上有四葉と云ふに符合ス

一種　たしかんがく

文政中琉球より来る形状野牡丹の如くにして小く葉の巾三四分長さ七八分茎葉ともに紅色の毛刺あり秋月梢に花を開く淡紅色大さ三四分紅色の蕊あり枝を柳て能く活ス

都咸子

アナガルチユム。カヨウ。アカヨウ荷蘭

物印帖ニ載ル圖葉ハ柳ニ似テ小ク実ハ蠶豆ニ似テ黒色なり荷蘭の説ニ此本をウーハタト名ク樹脂芳香アウヒヤコムの如し花五瓣白色芳香蘭の如し古ハ多く頭病打撲卒中ニ用ヒ印度ニテハ喘息を治すとゾウ

一種　アナガルチュム　カヨウスヂクチュス　蘭荷　又　アカヨウ　上同

物印帖に載る圖葉ハ前条に似て円く梢に花を開く菊花に似て紅色実ハ棗に似て大く黒色し

摩厨子　ヤムボス　羅甸　ヤムブースボーム　蘭荷

物印帖に載る圖葉ハ對生して形状蓑荷の葉に似て潤く淡緑色紋脈縦に通れり梢に穂を分して花ハ開く形せんとうに似て淡紅色花の中より淡紅の蕊を吐れ長さ一寸余実の形黄赤色大さ無花花わとありて形ぢちやに似たり

牽厨子

一種

物印忙に載る圖 黄色の物

一種

同上に載る圖 紫色の物

處々山野に多し高さ一二丈枝密に生し葉ハ小く円く両頭尖り互生し春月葉の間に五瓣の小さき白花を開く形柚の花に似て蒂長し随て実を結ぶ糖子の如し枝ハ樞の子に似て黄赤色仁ハ白色之状実をゆまかり好んで食ふ此枝ハ軟にして白色今の轆轤に作る

一種

苗にして梢に一花を開く物

一種

たくうんぼく　たつほバ日光　わらわかめのき奥及

玉鈴花　廣群芳譜黄海山花圖詠

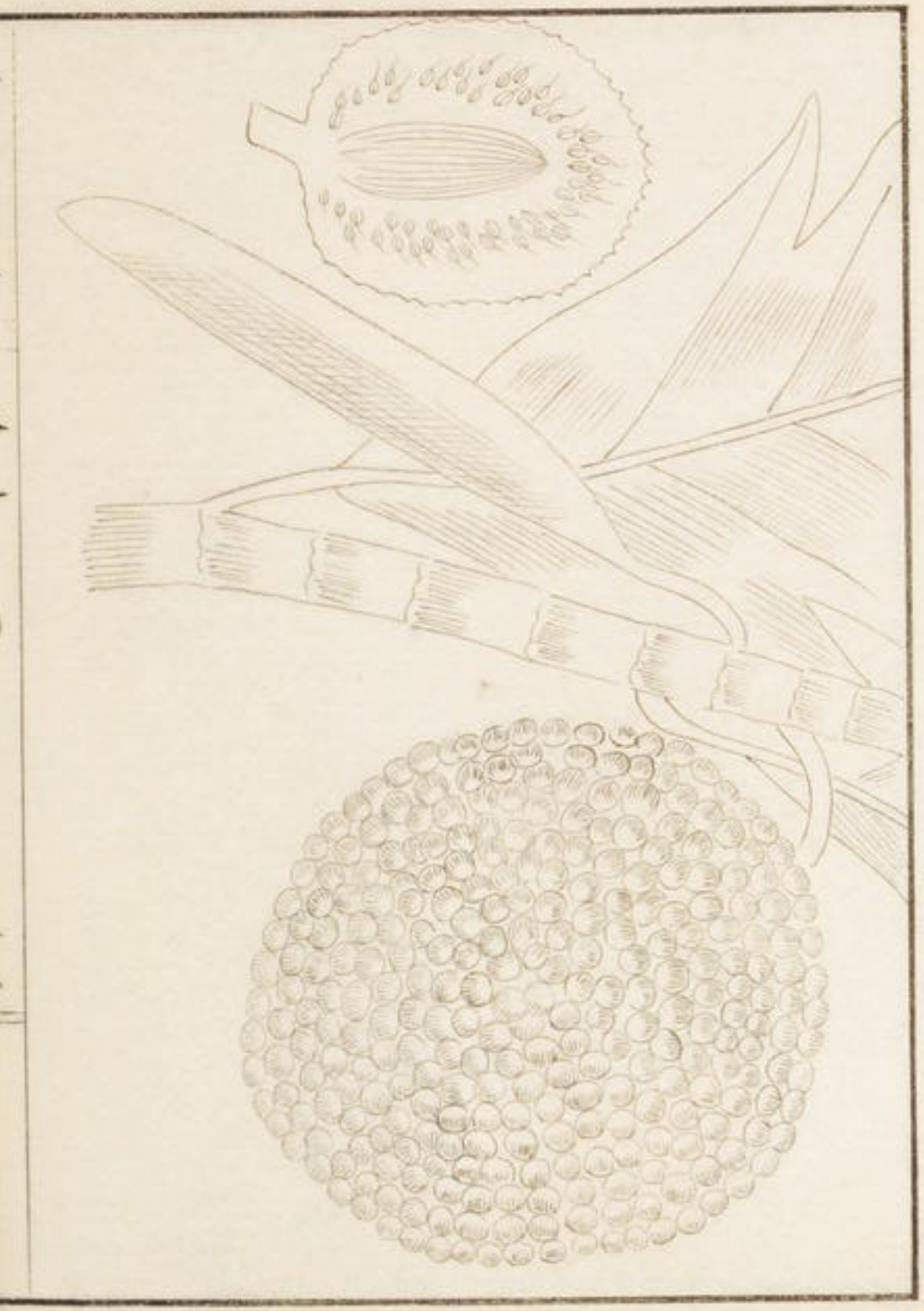
越後魚古郡及ひ日光足尾山等にあり葉円くして大さ三四寸浅き鋸歯あり厚くして背に白毛あり枝の梢に穂を為して五瓣の小白花を開き形状ちしやのきの花に似たり実の形又ちしやのきの実に似たり今花家多く育て砧に前条の為このきを用ゐ

韶子 ツーリアナ 荷蘭

物印忙に載る圖葉は猫に似て
鋸齒なく実は栗の如く大さ
四寸許り鞋の如く尖るもの
周りにあり中の実卵の如し

馬檳榔

天保九戌年長崎より来る
新渡蘭書の内の圖に一時
珍の説に蔓生結実大如
葡萄紫色とつくりに合
いつかれども前とに載れ



枳椇

そんぶなし 京江戸　あまかせ 和ゝ　けゾひ 播長

そんぶうなし 仙臺　りんのき 和名本草　石李 禮記註

檍構 物理小識　接骨木 典籍便覽 同名あり　金鉤梨

鷄枹子 共小同上　枹木 通雅　曲枝果 正字通

白石李 廣熙字典　厲 艹澡指頭 物理小識

木屈律 群芳譜　金銅樹 本經逢原

山野に多し樹直に聳へ高さ三四尺計り葉は梨の葉に似て長く大に三道の

大脈あり葉に微毛あり又ゑしのきの葉に似てもむし長大に互生は夏月穗を引て五瓣の小白花を開き実を結ぶ八九月に熟す形狀鳥の足に似て黄褐色中に核あり形扁々して小く地に下して生し易し寺島の説に酒藏中に桜木を柱に用ゐ其屋中の酒皆薄し　又此木並に実にても酒雍も中に設て入る時に化して水とある

枳椇

五山果樹
61-69